

FUJITSU Software
Infrastructure Manager V2.4
Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V2.4

プロフィール管理機能
プロフィール設定項目集

CA92344-2702-04
2019年10月

まえがき

本書の目的

本書では、サーバ、ストレージ、スイッチなどの ICT 機器やファシリティ機器（PDU など）を統合的に管理、運用する運用管理ソフトウェアである FUJITSU Software Infrastructure Manager で、管理対象機器のプロファイル作成の設定を行う際に選択する項目の詳細情報について説明します。

- ・ FUJITSU Software Infrastructure Manager（以降、「ISM」と表記）
- ・ FUJITSU Software Infrastructure Manager for PRIMEFLEX（以降、「ISM for PRIMEFLEX」と表記）

製品マニュアル

マニュアル名称	説明
FUJITSU Software Infrastructure Manager V2.4 Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V2.4 入門書	本製品を初めて使用する利用者向けのマニュアルです。 本製品の製品体系／ライセンス、利用手順の概要について説明しています。 マニュアル内では、『入門書』と表記します。
FUJITSU Software Infrastructure Manager V2.4 Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V2.4 解説書	本製品の機能、導入手順、操作方法を説明したマニュアルです。本製品の全機能、全操作を把握できます。 マニュアル内では、『解説書』と表記します。
FUJITSU Software Infrastructure Manager V2.4 Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V2.4 操作手順書	本製品の導入手順、利用シーンに応じた操作手順を説明したマニュアルです。 マニュアル内では、『操作手順書』と表記します。
FUJITSU Software Infrastructure Manager V2.4 Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V2.4 REST API リファレンスマニュアル	お客様が作成したアプリケーションと本製品を連携する際に必要な API の使用方法、サンプル、パラメーター情報などを説明したマニュアルです。 マニュアル内では、『REST API リファレンスマニュアル』と表記します。
FUJITSU Software Infrastructure Manager V2.4	ISM 使用時に出力される各種メッセージの説明と、そのメッセージに対しての対処方

マニュアル名称	説明
Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V2.4 メッセージ集	法について説明しています。 マニュアル内では、『ISM メッセージ集』と表記します。
FUJITSU Software Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V2.4 メッセージ集	ISM for PRIMEFLEX 使用時に出力される各種メッセージの説明と、そのメッセージに対しての対処方法について説明しています。 マニュアル内では、『ISM for PRIMEFLEX メッセージ集』と表記します。
FUJITSU Software Infrastructure Manager V2.4 Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V2.4 プロファイル管理機能 プロファイル設定 項目集	本書を指します。
FUJITSU Software Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V2.4 クラスタ作成／拡張機能 設定値一覧	ISM for PRIMEFLEX においてクラスタ作成機能、クラスタ拡張機能の自動設定内容や各機能で使用するクラスタ定義パラメータについて説明しています。 マニュアル内では、『ISM for PRIMEFLEX 設定値一覧』と表記します。
FUJITSU Software Infrastructure Manager V2.4 Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V2.4 用語集	本製品を使用するうえで理解が必要な用語の定義を説明した用語集です。 マニュアル内では、『用語集』と表記します。
FUJITSU Software Infrastructure Manager V2.4 Infrastructure Manager for PRIMEFLEX V2.4 Plug-in and Management Pack セットアップガイド	Infrastructure Manager Plug-in の以下の機能について、インストールから利用方法までと注意事項や参考情報を説明します。 ● Infrastructure Manager Plug-in for Microsoft System Center Operations Manager ● Infrastructure Manager Plug-in for Microsoft System Center Virtual Machine Manager ● Infrastructure Manager Plug-in for VMware vCenter Server

マニュアル名称	説明
	● Infrastructure Manager Plug-in for VMware vCenter Server Appliance ● Infrastructure Manager Management Pack for VMware vRealize Operations ● Infrastructure Manager Plug-in for VMware vRealize Orchestrator マニュアル内では、『ISM Plug-in/MP セットアップガイド』と表記します。

上記マニュアルと併せて、ISM に関する最新情報については、当社の本製品 Web サイトを参照してください。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/software/infrastructure-software/infrastructure-software/serverviewism/>

管理対象の各ハードウェアについては、各ハードウェアのマニュアルを参照してください。PRIMERGY の場合は、「ServerView Suite ServerBooks」、または PRIMERGY マニュアルページを参照してください。

<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/manual/>

本書の読者

このマニュアルは、ハードウェアとソフトウェアについて十分な知識を持っているシステム管理者、ネットワーク管理者、ファシリティ管理者およびサービス専門家を対象とします。

本書の表記について

表記

キーボード

印字されない文字のキーストロークは、[Enter]や[F1]などのキーアイコンで表示されます。例えば、[Enter]はEnterというラベルの付いたキーを押すことを意味し、[Ctrl]+[B]は、CtrlまたはControlというラベルの付いたキーを押しながら[B]キーを押すことを意味します。

記号

特に注意すべき事項の前には、以下の記号が付いています。

ポイント

ポイントとなる内容について説明します。

注意

注意する項目について説明します。

変数：＜xxx＞

お使いの環境に応じた数値／文字列に置き換える必要のある変数を表します。

例：＜IPアドレス＞

略称

本書では、以下のとおり略称で記載することがあります。

正式名称	略称	
Microsoft® Windows Server® 2019 Datacenter	Windows Server 2019 Datacenter	Windows Server 2019
Microsoft® Windows Server® 2019 Standard	Windows Server 2019 Standard	
Microsoft® Windows Server® 2019 Essentials	Windows Server 2019 Essentials	
Microsoft® Windows Server® 2016 Datacenter	Windows Server 2016 Datacenter	Windows Server 2016
Microsoft® Windows Server® 2016 Standard	Windows Server 2016 Standard	
Microsoft® Windows Server® 2016 Essentials	Windows Server 2016 Essentials	
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Datacenter	Windows Server 2012 R2 Datacenter	Windows Server 2012 R2
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Standard	Windows Server 2012 R2 Standard	
Microsoft® Windows Server® 2012 R2 Essentials	Windows Server 2012 R2 Essentials	
Microsoft® Windows Server® 2012 Datacenter	Windows Server 2012 Datacenter	Windows Server 2012
Microsoft® Windows Server® 2012 Standard	Windows Server 2012 Standard	
Microsoft® Windows Server® 2012 Essentials	Windows Server 2012 Essentials	
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter	Windows Server 2008 R2 Datacenter	Windows Server 2008 R2
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise	Windows Server 2008 R2 Enterprise	
Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard	Windows Server 2008 R2 Standard	
Red Hat Enterprise Linux 8.0 (for Intel64)	RHEL 8.0	Red Hat Enterprise Linux または Linux
Red Hat Enterprise Linux 7.7 (for Intel64)	RHEL 7.7	
Red Hat Enterprise Linux 7.6 (for Intel64)	RHEL 7.6	
Red Hat Enterprise Linux 7.5 (for Intel64)	RHEL 7.5	
Red Hat Enterprise Linux 7.4 (for Intel64)	RHEL 7.4	

正式名称	略称	
Red Hat Enterprise Linux 7.3 (for Intel64)	RHEL 7.3	
Red Hat Enterprise Linux 7.2 (for Intel64)	RHEL 7.2	
Red Hat Enterprise Linux 7.1 (for Intel64)	RHEL 7.1	
Red Hat Enterprise Linux 6.10 (for Intel64)	RHEL 6.10(Intel64)	
Red Hat Enterprise Linux 6.10 (for x86)	RHEL 6.10(x86)	
Red Hat Enterprise Linux 6.9 (for Intel64)	RHEL 6.9(Intel64)	
Red Hat Enterprise Linux 6.9 (for x86)	RHEL 6.9(x86)	
Red Hat Enterprise Linux 6.8 (for Intel64)	RHEL 6.8(Intel64)	
Red Hat Enterprise Linux 6.8 (for x86)	RHEL 6.8(x86)	
Red Hat Enterprise Linux 6.7 (for Intel64)	RHEL 6.7(Intel64)	
Red Hat Enterprise Linux 6.7 (for x86)	RHEL 6.7(x86)	
Red Hat Enterprise Linux 6.6 (for Intel64)	RHEL 6.6(Intel64)	
Red Hat Enterprise Linux 6.6 (for x86)	RHEL 6.6(x86)	
SUSE Linux Enterprise Server 15 SP1 (for AMD64 & Intel64)	SUSE 15 SP1(AMD64) SUSE 15 SP1(Intel64) または SLES 15 SP1(AMD64) SLES 15 SP1(Intel64)	SUSE Linux Enterprise Server または Linux
SUSE Linux Enterprise Server 15 (for AMD64 & Intel64)	SUSE 15(AMD64) SUSE 15(Intel64) または SLES 15(AMD64) SLES 15(Intel64)	
SUSE Linux Enterprise Server 12 SP4 (for AMD64 & Intel64)	SUSE 12 SP4(AMD64) SUSE 12 SP4(Intel64) または SLES 12 SP4(AMD64) SLES 12 SP4(Intel64)	
SUSE Linux Enterprise Server 12 SP3 (for AMD64 & Intel64)	SUSE 12 SP3(AMD64) SUSE 12 SP3(Intel64) または SLES 12 SP3(AMD64) SLES 12 SP3(Intel64)	
SUSE Linux Enterprise Server 12 SP3 (for AMD64 & Intel64)	SUSE 12 SP3(AMD64) SUSE 12 SP3(Intel64) または SLES 12 SP3(AMD64) SLES 12 SP3(Intel64)	
SUSE Linux Enterprise Server 12 SP2 (for AMD64 & Intel64)	SUSE 12 SP2(AMD64) SUSE 12 SP2(Intel64) または	

正式名称	略称	
	SLES 12 SP2(AMD64) SLES 12 SP2(Intel64)	
SUSE Linux Enterprise Server 12 SP1 (for AMD64 & Intel64)	SUSE 12 SP1(AMD64) SUSE 12 SP1(Intel64) または SLES 12 SP1(AMD64) SLES 12 SP1(Intel64)	
SUSE Linux Enterprise Server 12 (for AMD64 & Intel64)	SUSE 12(AMD64) SUSE 12(Intel64) または SLES 12(AMD64) SLES 12(Intel64)	
SUSE Linux Enterprise Server 11 SP4 (for AMD64 & Intel64)	SUSE 11 SP4(AMD64) SUSE 11 SP4(Intel64) または SLES 11 SP4(AMD64) SLES 11 SP4(Intel64)	
SUSE Linux Enterprise Server 11 SP4 (for x86)	SUSE 11 SP4(x86) または SLES 11 SP4(x86)	
VMware® vSphere™ ESXi 6.7	VMware ESXi 6.7	VMware ESXi
VMware® vSphere™ ESXi 6.5	VMware ESXi 6.5	
VMware® vSphere™ ESXi 6.0	VMware ESXi 6.0	
VMware® vSphere™ ESXi 5.5	VMware ESXi 5.5	
VMware Virtual SAN	vSAN	

用語

本書で使用している主な略語および用語については、『用語集』を参照してください。

高度な安全性が要求される用途への使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業等の一般的用途を想定して開発・設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう開発・設計・製造されたものではありません。お客様は本製品を必要な安全性を確保する措置を施すことなくハイセイフティ用途に使用しないでください。また、お客様がハイセイフティ用途に本製品を使用したことにより発生する、お客様または第三者からのいかなる請求または損害賠償に対しても富士通株式会社およびその関連会社は一切責任を負いかねます。

安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。

本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。また、本製品を安全にお使いいただくためには、本製品のご使用にあたり各製品（ハードウェア、ソフトウェア）をご理解いただく必要があります。必ず各製品の注意事項に従ったうえで本製品をご使用ください。本書は本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

改造等

お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。

免責事項

本製品の運用を理由とする損失、免失利益等の請求につきましては、いかなる責任も負いかねます。本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。

登録商標について

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Server、Hyper-V、Active Directory、またはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Red Hat および Red Hat をベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc.の商標または登録商標です。

SUSE および SUSE ロゴは、米国およびその他の国における SUSE LLC の商標または登録商標です。

VMware、VMware ロゴ、VMware ESXi、VMware SMP および VMotion は VMware, Inc の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Intel、インテル、Xeon は、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Java は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。

Zabbix はラトビア共和国にある Zabbix LLC の商標です。

PostgreSQL は PostgreSQL の米国およびその他の国における商標です。

Apache は、Apache Software Foundation の商標または登録商標です。

Cisco は、米国およびその他の国における Cisco Systems, Inc. およびその関連会社の商標です。

Elasticsearch は、Elasticsearch BV の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Xen は、XenSource, Inc.の商標です。

Trend Micro および Deep Security は、トレンドマイクロ株式会社の商標又は登録商標です。

その他の会社名と各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

著作権表示

Copyright 2019 FUJITSU LIMITED

本書を無断で複製・転載することを禁止します。

改版履歴

版数	提供年月	章・節・項	変更内容
01	2019 年 2 月	–	新規作成
02	2019 年 4 月	1. PRIMERGY・PRIMEQUEST 3000B サーバ用プロファイルの BIOS/iRMC 設定項目 ・ BIOS タブ	注釈を追加
		3.1 Windows Server 用プロファイル 3.2 VMware ESXi 用プロファイル 3.3 Red Hat Enterprise Linux 用プロ ファイル 3.4 SUSE Linux Enterprise Server 用 プロファイル ・ OS 個別情報タブ	注釈に条件を追加
03	2019 年 5 月	まえがき	サポート OS を追加
04	2019 年 10 月	3.2 VMware ESXi 用プロファイル 3.3 Red Hat Enterprise Linux 用プロ ファイル 3.4 SUSE Linux Enterprise Server 用 プロファイル	サポート OS を追加 (ISM 2.4.0.d パッチ適 用による変更)

目次

まえがき	2
目次	10
1. PRIMERGY・PRIMEQUEST 3000B サーバ用プロファイルの BIOS/iRMC 設定項目	11
2. PRIMEQUEST 2000・PRIMEQUEST 3000E シリーズ パーティション用プロファイルの MMB 設定項目	40
3. サーバ用プロファイルの OS 設定項目	42
3.1. Windows Server 用プロファイル	42
3.2. VMware ESXi 用プロファイル	51
3.3. Red Hat Enterprise Linux 用プロファイル	56
3.4. SUSE Linux Enterprise Server 用プロファイル	65
4. PRIMERGY サーバ / PRIMEQUEST 3000E パーティション用プロファイルの仮想 IO 設定項目	74
4.1. カード設定	74
4.2. ポート設定	75
4.3. ブート設定	77
4.4. CNA 設定	79
4.5. 仮想アドレス設定	80
5. ストレージ用プロファイルの設定項目	83
5.1. ETERNUS DX 用プロファイル	83
5.2. ETERNUS NR 用プロファイル	87
6. スイッチ用プロファイルの設定項目	89
6.1. SR-X 用プロファイル	89
6.2. VDX 用プロファイル	94
6.3. イーサネットスイッチ (10GBASE-T 48+6 / 10GBASE 48+6) 用プロファイル	98
6.4. CFX 用プロファイル	102

1. PRIMERGY・PRIMEQUEST 3000B サーバ用プロファイルの BIOS/iRMC 設定項目

プロファイル中の BIOS/iRMC タブで設定可能な項目を記載します。

注意

- ・サーバの種類に応じて一部設定できない項目や設定内容が異なる項目があります。対象サーバがサポートしている範囲で設定してください。
- ・プロファイル内の設定項目は、個別に有効／無効を選択できます。無効にした場合、プロファイルを適用しても、無効に設定した項目は変更されません。
- ・プロファイルと実際の機種の設定項目が異なる場合があります。各項目の詳細は、対象サーバのマニュアルを参照し、プロファイルの該当する設定項目に対して設定してください。

BIOSタブ

項目名	説明	設定値
PCI SubSystem Settings		
ASPM Support (PCI-E ASPM Support (Global)) (Disabled / L1 only / Auto / Force L0s)	PCI Express リンクの電源管理に Active State Power Management (ASPM) を使用するかどうかを指定します。ASPM はこの設定によって全般的に有効になっていても、該当する PCI Express 拡張カードまたはオンボードコントローラーも ASPM をサポートしている場合にのみ特定のリンクに対して有効になります。	Disabled = ASPM を無効にする L1 only = PCI Express リンクの低電力モードは L1 (単方向) に設定する Auto = 省電力を最大化されるように設定する Force L0s / Limit to L0s = PCI Express リンクの低電力モードを L0s (単方向) に設定する
DMI Control (GEN 1 / GEN 2)	CPU とチップセット間のバス接続速度を選択します。速度が遅いほど消費電力が少なくなりますが、システムパフォーマンスも低下します。	GEN 1 = CPU とチップセット間のバス接続を設定して 2.5 GT/s で実行する GEN 2 = CPU とチップセット間のバス接続を

項目名		説明	設定値
			設定して 5.0 GT/s で実行する
CPU Configuration			
	Execute Disable Bit (Enabled / Disabled)	CPU の Execute Disable Bit 動作を指定します。本機能は、マニュアルによって、「XD (eXecute Disable) ビット」、または「NX (No eXecute) ビット」として説明されている場合があります。	Enabled = 機能を使用可能にする Disabled = 機能が無効にする
	Hyper-Threading (Enabled / Disabled)	CPU の Hyper Threading Technology 動作を指定します。 本機能を持たない CPU を搭載している場合、本設定は無視されます。	Enabled = 機能を使用可能にする Disabled = 機能が無効にする
	Active Processor Cores (All / 1-64)	複数のプロセッサコアが含まれているプロセッサに対して、有効なプロセッサコア数を指定します。有効でないプロセッサコアは使用されず、OS から隠蔽されます。	All = 使用可能なすべてのプロセッサコアを有効にする 1-64 = 選択した数のプロセッサコアのみを有効にし、残りのプロセッサコアは無効にする
	Hardware Prefetcher (Enabled / Disabled)	メモリバスが非アクティブになったときに、必要になる可能性のあるメモリ内容が自動的にキャッシュにプリロードするか指定します。 メモリではなくキャッシュから内容を読み出すことによって、特にデータへのリニアアクセスを使用するアプリケーションの場合にレイテンシが短縮されます。	Enabled = 機能を使用可能にする Disabled = 機能が無効にする
	Adjacent Cache Line	プロセッサのキャッシュ要求	Enabled = 要求された

項目名	説明	設定値
Prefetch (Enabled / Disabled)	時に追加の隣接する 64 バイト キャッシュラインをロードするか指定します。 プロセッサのキャッシュ要求時に追加の隣接する 64 バイト キャッシュラインをロードするためのメカニズムがプロセッサに備わっている場合に、このパラメーターを使用できます。これによって、空間局所性の高いアプリケーションのキャッシュヒット率が高まります。	キャッシュラインと隣接キャッシュラインをロードする Disabled = 要求されたキャッシュラインをロードする
DCU Streamer Prefetcher (Enabled / Disabled)	メモリバスが非アクティブになったときに、必要になる可能性のあるデータ内容が自動的に L1 データキャッシュにプリロードするか指定します。 メモリではなくキャッシュから内容を読み出すことによって、特にデータへのリニアアクセスを使用するアプリケーションの場合にレイテンシが短縮されます。	Enabled = 機能を有効にする Disabled = 機能を無効にする
DCU Ip Prefetcher (Enabled / Disabled)	CPU の DCU IP Prefetch 動作を指定します。	Enabled = CPU の DCU IP Prefetch を有効にする Disabled = CPU の DCU IP Prefetch を無効にする
Intel Virtualization Technology (Enabled / Disabled)	CPU の仮想化支援機能の動作を指定します。	Enabled = 機能を有効にする Disabled = 機能を無効にする
Intel (R) VT-d	CPU の Virtualization	Enabled = 機能を有効

項目名		説明	設定値
	(Enabled / Disabled)	Technology for Directed I/O 機能動作を指定します。	にする Disabled = 機能を無効にする
	Power Technology (Energy Efficient / Custom / Disabled)	CPU の電源管理動作を設定します。	Energy Efficient = 省電力に最適化された動作をする Custom = 追加設定項目により詳細動作を設定する Disabled = 電源管理機能を無効にする
	HWPM Support (Disabled / Native Mode / OOB Mode)	Power Technology が Custom の場合のみ設定可能な項目です。 パフォーマンスおよび省電力を管理する HWPM (Hardware Power Management) の設定を指定します。	Disabled = HWPM 機能を使用しない Native Mode = HWPM は、ソフトウェアインターフェース経由でオペレーティングシステムと協調動作する。 OOB Mode = CPU は、オペレーティングシステムのエネルギー効率ポリシーの設定に基づいて周波数を自動的に制御する
	Enhanced SpeedStep (Enabled / Disabled)	Power Technology が Custom の場合のみ設定可能な項目です。 CPU の EIST (Enhanced Intel SpeedStep Technology) 動作を指定します。	Enabled = 機能を有効にする Disabled = 機能を無効にする
	Turbo Mode (Enabled / Disabled)	Enhanced SpeedStep が Enabled の場合のみ設定可能な項目です。 CPU の Turbo Boost Technology 動作を指定しま	Enabled = 機能を有効にする Disabled = 機能を無効にする

項目名			説明	設定値
			す。 本機能を持たないCPUを搭載している場合、本設定に関わらず無効 (Disabled) と設定されます。	
		Override OS Energy Performance (Enabled / Disabled)	Power Technology が Custom の場合のみ設定可能な項目です。 OS がセットアップのエネルギー効率ポリシーの設定を上書きしないように防止するか指定します。	Enabled = 機能を有効にする Disabled = 機能を無効にする
		Energy Performance (Performance / Balanced Performance / Balanced Energy / Energy Efficient)	Power Technology が Custom の場合かつ、Override OS Energy Performance が Enabled の場合のみ設定可能な項目です。 非レガシーオペレーティングシステムでのプロセッサのエネルギー効率ポリシーを指定します。 動作によってこのモードを使用しないように決定されることがあります。	Performance = エネルギー効率を犠牲にしても、パフォーマンスを得る方向に強く最適化する Balanced Performance = エネルギーを節約しながら、パフォーマンスを得る方向に設定する Balanced Energy = 良好なパフォーマンスを得ながら、エネルギーを節約する方向に設定する Energy Efficient = パフォーマンスを犠牲にしても、エネルギー効率を得る方向に強く最適化する
		Utilization Profile (Even / Unbalanced)	Power Technology が Custom の場合かつ、Override OS Energy Performance が Enabled の場合のみ設定可能な項目です。	Even = エネルギーパフォーマンスがバランスの取れたシステム利用のため最適化する Unbalanced = パフォー

項目名			説明	設定値
			異なるシステム利用に最適化されるエネルギーパフォーマンスの割合を指定します。	マンスを優先したアンバランスのシステム利用に最適化する
	Autonomous C-state Support (Enabled / Disabled)		Power Technology が Custom の場合のみ設定可能な項目です。 プロセッサの Autonomous C ステートクロック制御を有効にするか指定します。	Enabled = 機能を有効にする Disabled = 機能を無効にする
	CPU C1E Support (Enabled / Disabled)		Power Technology が Custom の場合のみ設定可能な項目です。 電力の節約が可能なときにプロセッサを停止するか指定します。	Enabled = 機能を有効にする Disabled = 機能を無効にする
	CPU C3 Report (Enabled / Disabled)		Power Technology が Custom の場合のみ設定可能な項目です。 プロセッサの C3 状態を ACPI C-2 状態として OSPM (OS Power Management) に渡すか指定します。	Enabled = CPU C3 は ACPI C-2 状態として OSPM に渡す Disabled = CPU C3 は ACPI C-2 状態として OSPM に渡さない
	CPU C6 Report (Enabled / Disabled)		Power Technology が Custom の場合のみ設定可能な項目です。 プロセッサの C6 状態を ACPI C-3 状態として OSPM に渡して、プロセッサの Deep Power Down Technology を有効にするか指定します。	Enabled = CPU C6 は ACPI C-3 状態として OSPM に渡す Disabled = CPU C6 は ACPI C-3 状態として OSPM に渡さない
	Package C State limit (C0 / C2 / C6 / C6(Retention) / C7 / No Limit / Auto)		Power Technology が Custom の場合のみ設定可能な項目です。 プロセッサの C State の上限を指定します。	C0=:C State の上限を C0 に設定する C2=:C State の上限を C2 に設定する C6=:C State の上限を

項目名		説明	設定値
			C6 に設定する C6(Retention) = :C6 Retention を C 状態限度に設定する C7=:C State の上限を C7 に設定する No Limit=:C State の上限を制限しない Auto=:システムで自動的に決定する
	QPI Link Frequency Select (Auto / 6.4 GT/s、7.2 GT/s、8.0 GT/s、9.6 GT/S、10.4 GT/s)	リンク周波数を、CPU で共通してサポートされる周波数に指定します。	Auto=BIOS から、システムに存在する CPU とチップセットに基づいて最大速度を設定する 使用可能な速度設定は CPU に依存する。以下を選択する。 6.4 GT/s、7.2 GT/s、8.0 GT/s、9.6 GT/s、10.4 GT/s
	Uncore Frequency Override (Disabled / Maximum / Nominal)	プロセッサのアンコア周波数を指定します。 これにより I/O パフォーマンスを向上させます。	Disabled = 電力を節約するために、事前に定義された範囲でプロセッサが自動的に周波数を制御する Maximum = 周波数は常に事前に定義された最大値を設定する Nominal = 電力を節約するために、事前に定義された範囲でプロセッサが自動的に周波数を制御する。定格周波数を上回ることはない
	LLC Dead Line Alloc	LLC (Last Level Cache) のデ	Enabled = 便宜的に

項目名	説明	設定値
(Enabled / Disabled)	ッドラインの処理を指定します。 これによりシステムパフォーマンスは影響を受けます。	LLC のデッドラインを満たす Disabled = LLC のデッドラインを満たさない
Stale AtoS (Enabled / Disabled)	Caching Agent で陳腐化したデータのディレクトリ最適化を指定します。 これによりシステムパフォーマンスは影響を受けます。	Enabled = 最適化を有効にする Disabled = 最適化を無効にする
COD Enable (Enabled / Disabled / Auto)	BIOS が追加の NUMA ノードをソケットごとに構成し、NUMA 指向性の高い作業負荷のパフォーマンスを最適化するかどうか指定します。 この項目は、2 つのホームエージェントを持つ CPU が必要です。COD (Cluster-on-Die) が有効なシステムの場合、等時性アプリケーションを無効にする必要があります、早期スヌーピングはサポートされません。	Enabled = 機能を有効にする Disabled = 機能を無効にする Auto = システム構成でこれを許可する場合に COD を有効にする
Early Snoop (Enabled / Disabled / Auto)	早期スヌーピングを有効にするかどうか指定します。COD が有効な場合はサポートされません。	Enabled = 機能を有効にする Disabled = 機能を無効にする Auto = システム構成でこれが許可されず COD が無効な場合に、早期スヌープモードが有効になる
Home Snoop Dir OSB (Enabled / Disabled / Auto)	Home Snoop Directory with plain OSB (Opportunistic Snoop Broadcast) キャッシングを使用してスヌープ処理を	Enabled = 機能を有効にする Disabled = 機能を無効にする Auto = CPU 構成

項目名	説明	設定値
	最適化するか指定します。	に基づいて自動的に選択される
Memory Configuration		
DDR Performance (Low-Voltage optimized / Energy optimized / Performance optimize)	メモリモジュールは異なる速度（周波数）で動作します。高速になるほどパフォーマンスが向上し、低速になるほど省電力になります。使用可能なメモリ速度は、取り付けられているメモリモジュールの構成に応じて異なります。	Low-Voltage optimized ＝低電圧で可能な最も高速な設定 Energy optimized＝省電力で可能な最も低速な設定 Performance optimized ＝最高のパフォーマンスを得るために可能な最も高速な設定
NUMA (Enabled / Disabled)	NUMA(Non-Uniform Memory Access)機能の利用有無を指定します。 マルチプロセッサ構成ではない場合は意味を持ちません。 BX920、BX924、RX200、RX300、RX2520 の場合、本設定は、BX920 S4、BX924 S4、RX200 S8、RX300 S8、RX2520 M1 の BIOS 1.3.0、iRMC ファーム 7.19F 以降が適用された装置でのみサポートされます。それ以外の装置では、本設定自体を無効化しておく必要があります。	Enabled=NUMA 機能を有効にする Disabled=NUMA 機能を無効にする
Patrol Scrub (Enabled / Disabled)	全メモリをバックグラウンドで定期的にスクリーニングするかどうかを指定します。	Enabled＝バックグラウンドメモリスクリーニングを有効にする Disabled＝バックグラウンドメモリスクリーニングを無効にする
IMC Interleaving	Integrated Memory	Auto＝使用可能なメモ

項目名		説明	設定値
	(Auto / 1-Way / 2-Way)	Controllers (IMC) のインターリーピングを指定します。このオプションを使用して、メモリ構成に応じてシステムパフォーマンスを構築できます。	リ構成に応じて、BIOSでインターリーピングを自動的に選択する 1-Way=1-Way インターリーピングを選択します 2-Way=2-Way インターリーピングを選択します
	Sub NUMA Clustering (Enabled / Disabled / Auto)	Sub NUMA Clustering (SNC) は、LLC (Last Level Cache) をアドレス範囲に基づいてばらばらのクラスタに分割する機能です。LLC からローカルメモリまで平均レイテンシを向上します。	Enabled = フル Sub NUMA Clustering 、つまり、 1-Way インターリーピングの 2 クラスタをサポートします。 Disabled = Sub NUMA Clustering を無効にする Auto=IMC インターリーピングの選択によって、1 クラスタまたは 2 クラスタがサポートされます。 IMC インターリーピングが「Auto」の場合も、 2-Way インターリーピングの 1 クラスタがサポートされます
Onboard Device Configuration			
	Onboard SAS/SATA (SCU) (Enabled / Disabled)	オンボード SAS/SATA ストレージコントローラーユニット (SCU) の動作を指定します。	Enabled = SCU を有効にする Disabled = SCU を無効にする
	SAS/SATA OpROM (Enabled / Disabled)	オンボード SAS/SATA (SCU) が Enabled の場合のみ設定可能な項目です。 SAS/SATA コントローラーの	Enabled = Option ROM を有効にする Disabled = Option ROM を無効にする

項目名		説明	設定値
		Option ROM 動作を指定します。	
	SAS/SATA Driver (LSI MegaRAID / Intel RSTe)	SAS/SATA OpROM が Enabled の場合のみ設定可能な項目です。 SAS/SATA コントローラーの Option ROM の種類を指定します。	LSI MegaRAID = Embedded MegaRAID 用 Option ROM を使用する Intel RSTe=Intel RSTe 用 Option ROM を使用する
	Flexible LOM (Enabled / Disabled)	Flexible LOM (OCP) のポートを使用するか指定します。	Enabled = すべての Flexible LOM のポートを有効にする Disabled = Flexible LOM のポートを無効にする
	Flexible LOM Oprom (Enabled / Disabled)	Flexible LOM アダプターの Legacy Option ROM を起動するかどうかを指定します。 レガシー、つまり非 UEFI Option ROM のみ有効です。 UEFI Option ROM はこの選択により影響を受けません。	Enabled = Legacy Option ROM を起動する Disabled = Legacy Option ROM を起動しない
	LAN Controller (Disabled / LAN 1 / LAN 1 & 2)	機能させる LAN コントローラーを指定します。 注意 サーバの種類によって、BIOS の設定値が「Disabled / Enabled」になっている場合があります。BIOS の設定値を「Enabled」にしたい場合、本項目で「LAN 1」を指定してください。	Disabled=両方の LAN コントローラーを無効にする LAN 1=LAN 1 コントローラーを有効にし、LAN 2 コントローラーを無効にする LAN 1 & 2=両方の LAN コントローラーを有効にする
	LAN 1 Oprom (Disabled / PXE / iSCSI)	Option ROM を起動するかどうかを指定します。起動する	Disabled=Option ROM を起動しない

項目名	説明	設定値
	場合は Option ROM のタイプを指定します。 BIOS POST 中に適切な Option ROM が起動する場合は、ブートデバイスとして LAN コントローラーを使用できます。	PXE = PXE Option ROM を起動する iSCSI = iSCSI Option ROM を起動する
LAN 2 Oprom (Disabled / PXE / iSCSI)	Option ROM を起動するかどうかを指定します。起動する場合は Option ROM のタイプを指定します。 BIOS POST 中に適切な Option ROM が起動する場合は、ブートデバイスとして LAN コントローラーを使用できます。 注意 サーバのモデルによっては LAN 2 コントローラーがない場合があります。その場合、本項目を無効化してください。	Disabled=Option ROM を起動しない PXE = PXE Option ROM を起動する iSCSI = iSCSI Option ROM を起動する
Option ROM Configuration		
Launch Slot X OpROM (Enabled / Disabled)	各 PCI スロットに搭載されたオプションカードの拡張 ROM 実行を指定します。 プロファイルでは多くのスロットに対して指定できますが、実機上に存在しないスロットに対しては設定しないでください。	Enabled=拡張 ROM を実行する Disabled=拡張 ROM を実行しない
CSM Configuration		
Launch CSM (Enabled / Disabled)	CSM (Compatibility Support Module) を実行するかどうか	Enabled=CSM を実行する

項目名		説明	設定値
		を指定します。 CSM がロードされている場合のみ、レガシーオペレーティングシステムを起動できます。	Disabled=CSM を実行しない[注 1]
	Boot Option Filter (UEFI and Legacy / UEFI only / Legacy only)	どちらのドライブからブートできるかを指定します。	UEFI and Legacy = UEFI OS ドライブおよび Legacy OS ドライブからブート可能 UEFI only = UEFI OS ドライブからのみブート可能[注 2] Legacy only = Legacy OS ドライブからのみブート可能[注 2]
	Launch Pxe OpRomPolicy (UEFI only / Legacy only / Do not launch)	起動する PXE Option ROM を指定します。 PXE ブートの場合は、使用可能な通常の (Legacy) PXE ブートおよび UEFI PXE ブートがあります。	UEFI only=UEFI Option ROM のみ起動する[注 2][注 3] Legacy only=Legacy Option ROM のみ起動する[注 2] Do not launch=Option ROM を起動しない[注 4]
	Launch Storage OpRomPolicy (UEFI only / Legacy only / Do not launch)	起動する Storage Option ROM を指定します。	UEFI only=UEFI Storage Option ROM のみ起動する Legacy only=Legacy Storage Option ROM のみ起動する Do not launch=Storage Option ROM を起動しない
	Other PCI Device Rom Priority	ネットワーク、マスマストレージデバイス、ビデオ以外のデ	UEFI only = UEFI Option ROM のみ起動

項目名		説明	設定値
	(UEFI only / Legacy only)	バイスで起動する Option ROM を指定します。	する Legacy only = Legacy Option ROM のみ起動する
USB Configuration			
	Onboard USB Controllers (Enabled / Disabled)	システムボードの USB コントローラーを有効または無効にできます。 オンボード USB コントローラーが無効な場合は、接続されるすべての USB デバイスを使用できません。ローカル接続されるキーボード、マウス、大容量ストレージに加え、iRMC を使用するキーボード、マウス、大容量ストレージや、内部接続 USB デバイスも使用できません。	Disabled = オンボード USB コントローラーを無効にする Enabled = オンボード USB コントローラーを有効にする
Network Stack			
	Network Stack (Enabled / Disabled)	UEFI Network Stack を UEFI でネットワークアクセスに使用できるかどうかを設定します。	Disabled = UEFI ネットワークスタックの使用を許可しない[注 1][注 3] Enabled = UEFI ネットワークスタックの使用を許可する
	IPv4 PXE Support (Enabled / Disabled)	IPv4 による PXE UEFI Boot を UEFI モードで使用できるかどうかを指定します。	Disabled = IPv4 による PXE UEFI Boot の使用を許可しない Enabled = IPv4 による PXE UEFI Boot の使用を許可する
	IPv6 PXE Support (Enabled / Disabled)	IPv6 による PXE UEFI Boot を UEFI モードで使用できるかどうかを指定します。	Disabled = IPv6 による PXE UEFI Boot の使用を許可しない

項目名		説明	設定値
			Enabled = IPv6 による PXE UEFI Boot の使用を許可する
Secure Boot Configuration			
	Secure Boot Control (Enabled / Disabled)	署名されていないブートローダ/UEFI OpROM のブートを許可するかどうかを指定します。 注意 本設定はハードウェアの仕様として Disabled にできない場合があります。その場合、サーバの BIOS インターフェースから値を設定してください。	Disabled = すべてのブートローダ/OpROM (Legacy/UEFI) を実行する Enabled = 署名されたブートローダ/UEFI OpROM のブートのみ許可する
Server Mgmt			
	Sync RTC with MMB (PRIMERGY BX シリーズのみ)	Real Time Clock をマネジメントブレードと同期させるかどうかを指定します。	Disabled = 同期しない Enabled = 同期する
	Adjust Date Time	プロファイル適用時に、サーバの時刻を管理サーバの時刻を基準にして変更します。 Sync RTC with MMB が Disabled の場合のみ設定できます。 注意 本項目はサーバの BIOS セットアップユーティリティの設定項目ではありません。 BIOS 設定を変更するのではなく、対象サーバの時刻 (RTC) をプロファイル適用時に一度だけ変更する機能であり、すべての PRIMERGY	Local Time = 管理サーバのタイムゾーン設定に応じた時刻を指定する UTC = 管理サーバのタイムゾーン設定から UTC に変換した時刻を指定する

項目名	説明	設定値
	BX シリーズで使用可能です。	

[注 1] Launch CSM と Network Stack が共に"Disabled"の場合、OS インストールに失敗します。

[注 2] Boot Option Filter が"UEFI only"または"Legacy only"で、Boot Option Filter と Launch Pxe OpRomPolicy が一致しない場合、OS インストールに失敗します。

[注 3]Launch Pxe OpRomPolicy が"UEFI only"で NetworkStack が"Disabled"の場合、OS インストールに失敗します。

[注 4]Launch Pxe OpRomPolicy が"Do not launch"の場合、OS インストールに失敗します。

iRMCタブ

項目名	説明	設定値
iRMC GUI		
デフォルト言語 (英語 / ドイツ語 / 日本語)	言語の初期設定を行います。 次回 iRMC Web インターフェースを呼び出す際に有効になります。	英語＝デフォルト言語を英語にする ドイツ語＝デフォルト言語をドイツ語にする 日本語＝デフォルト言語を日本語にする
電源制御		
POST エラー時の動作 (起動継続 / 起動停止)	サーバ起動時にエラーが発生した場合の対応動作を設定します。	起動継続＝エラーが発生しても、起動処理を続ける 起動停止＝エラーが発生すると、キー入力があるまで起動を停止する
電源復旧時動作設定 (電源断前の状態に戻す / 電源投入しない / 電源投入する)	AC 電源入力が切断されたあと、電源復旧した際の電源動作を設定します。	電源断前の状態に戻す＝電源切断発生時の状態を保持する (切断時にサーバが電源オン中だった場合は電源投入する。電源オフ中だった場合は電源投入しない) 電源投入しない＝常に電源オフになる 電源投入する＝常に電源オンになる

項目名		説明	設定値
電力制御 (OS によるコントロール / 省電力動作)		サーバの省電力動作や静音動作に関する設定を行います。 注意 BIOS 設定で、Enhanced SpeedStep を無効に設定した場合、本制御も無効となります。	OS によるコントロール＝OS の制御に従う 省電力動作＝消費電力を抑えることを優先した動作となる (スケジュール)＝プロファイル管理では設定できない (電力制限)＝プロファイル管理では設定できない
ファンテスト			
	ファン確認時刻	ファンテストを実行する場合に有効になります。	ファンテストの開始時刻を入力する。
	ファンテスト無効化	定期的なファンの診断を行うかどうかを設定します。	(チェックあり)＝ファンテストを行わない (チェックなし)＝毎日指定した時刻にテストを行う
ソフトウェアウォッチドッグ			
	ソフトウェアウォッチドッグ	ソフトウェアウォッチドッグで、OS 動作中に定期的な通信チェックをするかどうかを指定します。 注意 設定はサーバ再起動後に有効となります。	(チェックあり)＝通信監視を行う (チェックなし)＝通信監視を行わない
	動作	通信が行えない場合の動作を指定します。 注意 設定はサーバ再起動後に有効となります。	ブルダウンから以下を選択する。 継続稼働＝特に何も行わない リセット＝サーバの再起動を行う パワーサイクル＝一度サーバを電源オフにしたあと、電源オンを行う

項目名		説明	設定値
	タイムアウト時間	通信できないと判断する時間を指定します。 注意 設定はサーバ再起動後に有効となります。	1～100 分までの数値を指定する。
Boot ウォッチドッグ			
	Boot ウォッチドッグ	Boot ウォッチドッグで、POST 終了後から OS 起動までの時間を監視するかどうかを指定します。 注意 設定はサーバ再起動後に有効となります。	(チェックあり) = 時間監視を行う (チェックなし) = 時間監視を行わない
	動作	指定した時間内に OS が起動しない場合の動作を指定します。 注意 設定はサーバ再起動後に有効となります。	プルダウンから以下を選択する。 継続稼働 = 特に何も行わない リセット = サーバの再起動を行う パワーサイクル = 一度サーバを電源オフにしたあと、電源オンを行う
	タイムアウト時間	OS が起動しないと判断する時間を指定します。 注意 設定はサーバ再起動後に有効となります。	1～100 分までの数値を指定する。
時刻			
	タイムモード (システム RTC / NTP サーバ)	iRMC の時刻設定を管理対象サーバから取得する、または NTP サーバから取	System RTC = 管理対象サーバのシステムクロックから iRMC の時刻を取得する

項目名		説明	設定値
		得するかどうかを指定します。	NTP Server=ネットワークタイムプロトコル(NTP)を使用して独自の時刻を参照時刻ソースとして動作する NTP サーバと iRMC の時刻を同期する
	RTC モード (ローカルタイム / UTC)	iRMC の時刻を UTC (協定世界時) 形式で表示する、またはローカルタイム形式で表示するかを選択できます。	ローカルタイム=iRMC の時刻をローカルタイム形式で表示する UTC = iRMC の時刻を UTC (協定世界時) 形式で表示する
	NTP サーバ 0	プライマリー NTP サーバの IP アドレスまたは DNS 名を指定します。	IP アドレスまたは DNS 文字列を入力する。
	NTP サーバ 1	セカンダリ NTP サーバの IP アドレスまたは DNS 名を指定します。	IP アドレスまたは DNS 文字列を入力する。
	タイムゾーン	サーバのある場所に対応するタイムゾーンを設定できます。	プルダウンから選択する。
ポート番号とネットワークサービス設定			
	Telnet 有効	Telnet 接続を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = Telnet 接続を有効にする (チェックなし) = Telnet 接続を無効にする
	Telnet ポート (初期値: 3172)	iRMC の Telnet ポート番号を指定します。	ポート番号を入力する。 初期値は 3172
	SSH 有効	ssh 接続を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = ssh 接続を有効にする (チェックなし) = ssh 接続を無効にする
	SSH ポート (初期値: 22)	ssh の Telnet ポート番号を指定します。	ポート番号を入力する。 初期値は 22
AIS Connect			

項目名		説明	設定値
	AIS Connect	AIS Connect を有効にするかを指定します。	有効＝AIS Connect を有効にする 無効＝AIS Connect を無効にする
	サービスモード	Service Mode を有効にするかを指定します。	有効＝Service Mode を有効にする 無効＝Service Mode を無効にする
	国名	AIS Connect RP(Reverse Proxy) 国を指定します。	プルダウンから国名を選択する。
	リモートセッション	リモートセッションを有効にするかを指定します。	許可＝リモートセッションを許可する 拒否＝リモートセッションを拒否する
	プロキシサーバ	HTTP プロキシサーバを使用するかを指定します。	(チェックあり)＝プロキシを使用する (チェックなし)＝プロキシを使用しない
プロキシサーバ			
	アドレス	プロキシサーバの IP アドレス、またはプロキシサーバ名を指定します。	IP アドレス、またはプロキシサーバ名文字列を入力する。
	ポート番号(初期値: 81)	プロキシサービスの ポート番号を指定します。	ポート番号を入力する。 初期値は 81
	ユーザー名	プロキシサーバで認証するユーザー名を指定します。	プロキシユーザー名文字列を入力する。
	パスワード	プロキシサーバで認証するパスワードを指定します。	パスワード文字列を入力する。
DNS			
	DNS	iRMC の DNS を有効にするかを指定します。	(チェックあり)＝DNS を有効にする (チェックなし)＝DNS を無効にする

項目名		説明	設定値
	DNS 設定	DHCP から DNS 構成を取得するかを指定します。 注意 「DNS ドメイン」「DNS 検索パス」「DNS サーバ 1-3」を設定する場合、本項目で（チェックなし）を指定してください。 本項目を有効にする場合、事前に DHCP を有効にしてください。	（チェックあり）＝DHCP サーバから DNS 構成を取得する （チェックなし）＝DHCP サーバから DNS 構成を取得しない
	DNS ドメイン	DNS サーバへの要求に対するデフォルトドメインの名前を指定します。	DNS ドメイン文字列を入力する。
	DNS 検索パス	DNS 検索パスをリストで指定します。	DNS 検索パス文字列を入力する。
	DNS サーバ 1-3	DNS サーバの IP アドレスを指定します。	DNS IP アドレス文字列を入力する。
	DNS リトライ	DNS リトライ回数を指定します。	1～5 回までの数値を指定する。 初期値は 2
	DNS タイムアウト	DNS 応答のタイムアウト（秒）を指定します。	1～30 秒までの数値を指定する。 初期値は 5
DNS 名登録			
	DNS 名登録	iRMC の DNS 名の設定方法を指定します。	なし＝iRMC に名前を登録しない DHCP アドレスを DNS に登録＝DHCP サーバへの DHCP 名の転送を有効にする DHCP サーバによる 完全修飾ドメイン名 を DNS へ登録＝DHCP サーバへ

項目名		説明	設定値
			の FQDN の転送を有効にする 動的 DNS 有効= 動的 DNS を使用した DNS レコードのアップデートを有効にする
iRMC 名の使用 (有効 / 無効)		「iRMC 名」に指定された文字列が、サーバ名の代わりに iRMC に使用されます。	(チェックあり) = iRMC 名を使用する (チェックなし) = iRMC 名を使用しない
iRMC 名		DNS 名の一部として使用される iRMC 名を指定します。 注意 下記以外の場合、ドット(.)は期待通りの動作をしないため、指定しないでください。 PRIMERGY RX/TX/CX M4 以降、PRIMEQUEST 3000B	iRMC 名文字列を入力する。
MAC アドレスを使用		iRMC の MAC アドレスの最後の 3 バイトを iRMC の DHCP 名に付加するかを指定します。	(チェックあり) = MAC アドレスを DNS 名に付加する (チェックなし) = MAC アドレスを DNS 名に付加しない
拡張子を使う		「拡張子名」に指定された拡張名を、iRMC の DHCP 名に付加するかを指定します。	(チェックあり) = 拡張子を付加する (チェックなし) = 拡張子を付加しない
拡張子		iRMC の拡張子名を指定します。	拡張子文字列を入力する。
Simple Service Discovery Protocol (SSDP)			

項目名		説明	設定値
	SSDP	SSDP 経由での自動検出を有効にするかを指定します。	(チェックあり) = 自動検出する (チェックなし) = 自動検出しない
SNMP 一般設定			
	SNMP 有効	SNMP を有効にするかどうかを指定します。 注意 iRMC の WebUI 画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目は iRMC の WebUI 画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。	有効=SNMP を有効にする 無効=SNMP を無効にする
	SNMP ポート(初期値: 161)	SNMP サービスが待機しているポート番号を指定します。 注意 iRMC の WebUI 画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目は iRMC の WebUI 画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。	ポート番号を入力する。 初期値は UDP 161
	SNMP サービスプロトコル (全て(SNMPv1/v2c/v3) / SNMPv3 のみ)	SNMP サービスプロトコルを指定します。 注意	全て(SNMPv1/v2c/v3)=全プロトコルサポート (SNMPv1/v2c/v3) SNMPv3 のみ = SNMPv3

項目名	説明	設定値
	iRMC の WebUI 画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目は iRMC の WebUI 画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。	のみサポート
SNMPv1/v2c コミュニティ名	SNMP v1/v2c の場合のコミュニティ文字列を指定します。 注意 iRMC の WebUI 画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目は iRMC の WebUI 画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。	
SNMPv3 ユーザー設定		
SNMPv3 有効 (有効 / 無効)	ユーザーに対して SNMPv3 サポートを有効にするかどうかを指定します。 注意 ● SNMPv3ユーザーを作成/変更するには、[ネットワーク設定] -> [SNMP]でSNMPを有効にする必要があります。 ● SNMPv3を使用するには最低8文字のパスワード	有効＝SNMPv3 サポートを有効にする 無効＝SNMPv3 サポートを無効にする

項目名	説明	設定値
	ードを設定する必要があります。 ● iRMC の WebUI 画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目は iRMC の WebUI 画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。	
SNMPv3 アクセス権	ユーザーのアクセス権限を指定します。 注意 ● SNMPv3 ユーザーを作成/変更するには、[ネットワーク設定] -> [SNMP] で SNMP を有効にする必要があります。 ● SNMPv3 を使用するには最低8文字のパスワードを設定する必要があります。 ● iRMC の WebUI 画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目は iRMC の WebUI 画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。	常に読み取りのみとなる。
認証 (SHA / MD5 / 無効)	SNMPv3 が認証に使用する認証プロトコルを選択します。 注意 ● SNMPv3 ユーザーを作	SHA=SHA を使用する MD5=MD5 を使用する 無効=認証を無効にする

項目名	説明	設定値
	成/変更するには、[ネットワーク設定] -> [SNMP]でSNMPを有効にする必要があります。 ● SNMPv3を使用するには最低8文字のパスワードを設定する必要があります。 ● iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。	
暗号化 (DES / AES / 無効)	SNMPv3 が SNMPv3 トラフィックの暗号化に使用する暗号化プロトコルを指定します。 注意 ● SNMPv3ユーザーを作成/変更するには、[ネットワーク設定] -> [SNMP]でSNMPを有効にする必要があります。 ● SNMPv3を使用するには最低8文字のパスワードを設定する必要があります。 ● iRMCのWebUI画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目はiRMCのWebUI画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に	DES=DES を使用する AES=AES を使用する 無効=暗号化を無効にする

項目名		説明	設定値
		失敗する場合は、設定項目を無効化してください。	
SNMP トラップ送信先			
	SNMP トラップコミュニティー	SNMP トラップコミュニティーを指定します。	SNMP トラップコミュニティー文字列を入力する。
	SNMP ユーザー	SNMPv3 トラップ送信先に定義済みの SNMPv3 ユーザーを指定します。 注意 iRMC の WebUI 画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目は iRMC の WebUI 画面に設定項目があっても設定できません。プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。	SNMP ユーザー文字列を入力する。
	送信先 SNMP サーバ 1-7	「トラップ送信先」として設定するコミュニティーに属するサーバの DNS 名または IP アドレスを指定します。	SNMP サーバの IP アドレス、または DNS 文字列を入力する。
	プロトコル	トラップの受信に使用する SNMP プロトコルバージョンを指定します。 注意 iRMC の WebUI 画面にない設定項目は設定できません。ファーム版数により、一部の設定項目は iRMC の WebUI 画面に設定項目があっても設定できません。	プルダウンから以下を選択する。 SNMPv1 、 SNMPv2c 、 SNMPv3

項目名		説明	設定値
		プロファイルの適用に失敗する場合は、設定項目を無効化してください。	
中央認証サービス (CAS)			
	CAS サポート	CAS を有効にするかを指定します。	(チェックあり) =CAS を有効にする (チェックなし) =CAS を無効にする
CAS サーバ			
	サーバ	CAS サーバの DNS 名または IP アドレスを指定します。	CAS サーバの IP アドレス、または DNS 文字列を入力する。
	ネットワークポート	CAS サービスが待機しているポート番号を指定します。	ポート番号を入力する。 初期値は 3170
	SSL 証明書確認	SSL 証明書確認を有効にするかを指定します。	(チェックあり) =SSL 証明書確認を有効にする (チェックなし) =SSL 証明書確認を無効にする
	ログインページ表示	ログインページを常に表示するかを指定します。	(チェックあり) =ログインページを常に表示する (チェックなし) =ログインページを常に表示しない
	ログイン URL	ログイン URL を指定します。	ログイン URL を入力する。 初期値は /cas/login
	ログアウト URL	ログアウト URL を指定します。	ログアウト URL を入力する。 初期値は /cas/logout
	認証 URL	認証 URL を指定します。	認証 URL を入力する。 初期値は /cas/validate
	アクセス許可の割り当て	アクセス許可を指定します。	常にローカルとなる。
ユーザー権限とパーミッション			
	権限レベル	ユーザーの権限レベルを指定します。	ユーザー=ユーザー権限を使用する

項目名	説明	設定値
		オペレーター＝オペレーター権限を使用する 管理者＝管理者権限を使用する OEM＝OEM 権限を使用する
Redfish ロール	Redfish ロールを指定します。	管理者＝管理者ロールを使用する オペレーター＝オペレーターロールを使用する リードオンリー＝リードオンリーロールを使用する No Access＝Redfish を使用しない
ユーザーアカウント変更	ユーザー変更権限を有効にするかを指定します。	(チェックあり)＝ユーザー変更権限を有効にする (チェックなし)＝ユーザー変更権限を無効にする
iRMC 設定変更	iRMC 設定変更権限を有効にするかを指定します。	(チェックあり)＝iRMC 設定変更権限を有効にする (チェックなし)＝iRMC 設定変更権限を無効にする
ビデオリダイレクション使用	ビデオリダイレクション使用権限を有効にするかを指定します。	(チェックあり)＝ビデオリダイレクション使用権限を有効にする (チェックなし)＝ビデオリダイレクション使用権限を無効にする
リモートストレージ使用	リモートストレージ使用権限を有効にするかを指定します。	(チェックあり)＝リモートストレージ使用権限を有効にする (チェックなし)＝リモートストレージ使用権限を無効にする

2. PRIMEQUEST 2000・PRIMEQUEST 3000E シリーズ パーティション用プロファイルの MMB 設定項目

プロファイル中の MMB タブで設定可能な項目を記載します。

MMBタブ

項目名		説明	設定値
Automatic Server Restart			
	対象とする	ASR (Automatic Server Restart) を設定するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 設定を行う (チェックなし) = 設定を行わない
	Number of Restart Tries	ウォッチドッグやハードウェアエラーで OS がシャットダウンした場合に、OS をリスタートするリトライ回数を設定します。	再起動の有無の選択、および回数 (1～10) を指定する。
	Action after exceeding Restart tries	上記リトライ回数を超過した場合の動作を設定します。	電源 OFF = リブート処理を止め、パーティションの電源を OFF にする (Stop rebooting and Power off) 停止 = リブート処理を止め、パーティションを停止する (Stop rebooting) NMI 割込み = リブート処理を止め、パーティションに対して NMI 割り込みを指示する (Diagnostic Interrupt assert)
Boot Watchdog			
	対象とする	ブートウォッチドッグを設定するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 設定を行う (チェックなし) = 設定を行わない
	Boot Watchdog	ブートウォッチドッグの有効/無効化のことです。	(チェックあり) = 時間監視を行う

項目名			説明	設定値
			OS 起動までの時間を監視するかどうかを指定します。	(チェックなし) = 時間監視を行わない
		Timeout time(seconds)	ここで指定した時間を超えて OS が起動しない場合に異常と判断されます。	1～6000 秒までの数値を指定する。
		Action when watchdog expires	指定した時間を超えて OS が起動しない場合の動作を指定します。	Continue(継続稼働) = 処理を継続する Reset(リセット) = 再起動を行う Power Cycle(パワーサイクル) = 一度電源 OFF したあと、電源 ON を行う
Software Watchdog				
		対象とする	ソフトウェアウォッチドッグを設定するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 設定を行う (チェックなし) = 設定を行わない
		Software Watchdog	ソフトウェアウォッチドッグの有効/無効化のことです。 OS 動作中に定期的な通信チェックをするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 通信チェックを行う (チェックなし) = 通信チェックを行わない
		Timeout time(seconds)	ここで指定した時間を超えて通信ができない場合に異常と判断されます。	1～6000 秒までの数値を指定する。
		Action when watchdog expires	指定した時間を超えて通信ができない場合の動作を指定します。	Continue(継続稼働) = 処理を継続する Reset(リセット) = 再起動を行う Power Cycle(パワーサイクル) = 一度電源 OFF したあと、電源 ON を行う NMI = NMI を発生させる

3. サーバ用プロファイルの OS 設定項目

プロファイル中の **OS/OS** 個別情報タブで設定可能な項目を記載します。省略可の記載がある項目はプロファイル上で設定をしなくても **OS** のインストールは可能です。省略した場合は設定されないか、**OS** のデフォルトの設定が適用されます。

ポリシーを事前作成することでプロファイル作成に利用できますが、ポリシー設定不可の記載がある項目は、ポリシーで設定できません。プロファイルを作成する時に設定してください。

3.1. Windows Server 用プロファイル

対象 OS は以下のとおりです。

- Windows Server 2008 R2 SP1
- Windows Server 2012
- Windows Server 2012 R2
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019

OSタブ

項目名		説明	設定値
インストール指定			
	インストールのタイプ	OS をコアインストール、フルインストールのどちらでインストールするかを指定します。	画面から選択する。
	インストールメディア[注12]	インストールに使用するメディアの種類を選択します。	プルダウンから選択する。 Microsoft 社メディアを選択した場合は、さらにプロダクトキーの入力が必要。
	ServerView Suite DVD (最新版数でインストール/版数を指定する)	インストールに使用する ServerView Suite DVD の版数を指定します。	最新版数でインストール＝リポジトリに登録されている中で、最も新しいバージョンの ServerView Suite を使用する

項目名		説明	設定値
			版数を指定する＝指定した版数の ServerView Suite を使用する
管理 LAN ネットワークポート設定			
	ネットワークポート指定	管理 LAN に使用するネットワークのポートを指定します。	(チェックあり)＝管理 LAN のネットワークポートを指定する
	指定方法	管理 LAN のネットワークポートの指定方法を選択します。[注 1][注 2]	プルダウンから選択する。
	ネットワークカード	指定方法で、「ポート番号」を指定した場合に設定します。 使用するネットワークカードの種類を選択します。	画面から選択する。 PCI カードを選択した場合には、 PCI スロット番号を入力する。
	ポート番号	指定方法で、「ポート番号」を指定した場合に入力します。	使用するポート番号を入力する。
	MAC アドレス[注 12]	指定方法で、「MAC アドレス」を指定した場合に入力します。	使用するネットワークの MAC アドレスを入力する。
	ブートモード指定	ブートモードを指定します。	(チェックあり)＝ブート種別を指定する
	ブート種別	サーバのブートモードを変更した場合、または明示的に指定する場合に選択します。	使用するブートの種別を画面から選択する。
RAID とディスクの構成			
	アレイコントローラーを使用する	サーバ内蔵のアレイコントローラーを OS インストール先として使用する場合に選択します。	(選択時)＝アレイコントローラーを使用する[注 3]
	既存アレイ構成を使用する (RAID を使用しない)	すでにアレイコントローラー上に作成済みのボリュームを使用します。	(選択時)＝既存のアレイ構成を使用する

項目名		説明	設定値
	場合も選択します)		
	アレイを新規に構築する	新しくアレイを構築し、その中にボリュームを作成して使用します。	(選択時) =アレイを新規に構築する 加えて、アレイコントローラーの種類、RAID レベル、RAID に組み込むディスクの台数をプルダウンから選択する。
	アレイコントローラーを使用しない	アレイコントローラー以外のドライブを OS インストール先として使用する場合に選択します。	(選択時) =アレイコントローラー以外を使用する 加えて、使用するドライブの種類を画面から選択する。[注 4]
ボリューム 1			
	ボリュームラベル	ボリューム名を指定します。[注 5]	ボリューム名文字列を入力する。[注 6]
	ファイルシステム	ファイルシステムの種類を選択します。	常に NTFS となる。
	パーティションサイズ (自動/指定)	パーティションのサイズを指定します。	自動=自動的に適切なサイズでパーティションを作成する 指定=入力したサイズでパーティションを作成する
	クイックフォーマット	パーティションのフォーマット時にクイックフォーマットを利用するかどうかを指定します。	する=クイックフォーマットを行う しない=通常のフォーマットを行う (作業時間は長くなる)
	利用形態	パーティションの用途を指定します。	常に Boot、OS となる。
基本設定			
	タイムゾーン	タイムゾーンを指定します。	プルダウンから選択する。
	地域と言語	地域と言語を指定します。	プルダウンから選択する。
	キーボード	キーボードの言語や種類	プルダウンから選択する。

項目名		説明	設定値
		を指定します。	
システム設定			
	画面解像度 [px]	OS インストール直後の画面解像度を指定します。	プルダウンから選択する。 [注 7] 例: 600×480、800×600、1024×768、1280×1024
	リフレッシュレート [Hz]	OS インストール直後のディスプレイのリフレッシュレートを指定します。	プルダウンから選択する。 [注 7]
	画面の色数 [bit]	OS インストール直後の画面の表示色数をビット数で指定します。	プルダウンから選択する。 [注 7]
役割と機能の追加			
	SNMP サービスのインストール	SNMP サービスをインストールするかどうかを指定します。	(チェックあり) = SNMP サービスをインストールする
	SNMP トラップ設定	SNMP トラップ送信時のコミュニティ名とトラップ送信先を指定します。	追加ボタンを選択して任意の数の設定を行う。 【省略可】
	コミュニティ名	SNMP トラップ送信時のコミュニティ名を指定します。	送信時のコミュニティ名文字列を入力する。
	トラップ送信先	SNMP トラップの送信先を指定します。	送信先の IP アドレス文字列を入力する。
	SNMP セキュリティサービス	受け付ける SNMP コミュニティ名とその権利を指定します。	追加ボタンを選択して任意の数の設定を行う。 【省略可】
	受け付けるコミュニティ名	受け付ける SNMP コミュニティ名を指定します。	受け付けるコミュニティ名文字列を入力する。
	コミュニティの権利	受け付ける SNMP コミュニティの権利を指定します。	プルダウンから選択する。 None=なし Read Create=読み取り、作成 Read Write=読み取り、書き込み

項目名			説明	設定値
				Read Only＝読み取りのみ Notify＝通知
		認証トラップの送信	未知のホストまたはコミュニティからの SNMP 要求があった場合に認証トラップを送信するかどうかを指定します。	(チェックあり)＝認証トラップを送信する (チェックなし)＝認証トラップを送信しない
		SNMP パケットの受付 (デフォルトのホストから SNMP パケットを受け付ける (LocalHost)/ これらのホストから SNMP パケットを受け付ける)	Localhost からの SNMP パケットを受け付けるかどうかを指定します。	(デフォルトのホストから SNMP パケットを受け付ける (LocalHost))＝Localhost からの SNMP パケットを受け付ける (これらのホストから SNMP パケットを受け付ける)＝次に指定したホスト名からの SNMP パケットを受け付ける。加えて、ホスト名を記載する
		SNMP 設定エージェント	連絡先と物理的な位置を入力する。	日本語を含む文字列が使用可能。 【省略可】
		サービス	SNMP ホストに関する情報を 5 つのオプションから指定します。	任意のサービスをチェックする。
		リモートデスクトップ	リモートデスクトップの利用可否を指定します。	(チェックあり)＝リモートデスクトップを有効にする (チェックなし)＝リモートデスクトップを無効にする
		リモートアシスタンス (インストールのタイプがフルの場合のみ)	リモートアシスタンスの利用可否を指定します。	許可する範囲を画面で指定する。 必要に応じて招待の有効時間も指定する。
		ファイアウォール設定	対象サーバを SCVMM へ	(チェックあり)＝ファイ

項目名		説明	設定値
		登録する際に必要となるファイアウォールの例外を作成します。 以下のアプリケーションからのアクセスが有効になります。 ● Windows Management Instrumentation(WMI) ● ファイルとプリンターの共有	アーウォール例外を作成する (チェックなし) = ファイアウォール例外を作成しない
	追加アプリケーション		
	Java Runtime Environment	Java Runtime Environment をインストールするかどうかを指定します。 ServerView RAID Manager をインストールする場合には必ず指定してください。	(チェックあり) = アプリケーションをインストールする [注 8]
	ServerView エージェント	ServerView エージェントをインストールするかどうかを指定します。 SNMP サービスをインストールする場合に指定できます。	(チェックあり) = アプリケーションをインストールする [注 9]
	ServerView アップデートエージェント	ServerView アップデートエージェントをインストールするかどうかを指定します。 ServerView エージェントをインストールする場合に指定できます。	(チェックあり) = アプリケーションをインストールする [注 9]
	DSNAP	DSNAP をインストールするかどうかを指定します。	(チェックあり) = アプリケーションをインストールする [注 10]

項目名		説明	設定値
	ソフトウェアサポートガイド	ソフトウェアサポートガイドをインストールするかどうかを指定します。	(チェックあり) = アプリケーションをインストールする [注 10]
	ServerView RAID Manager	ServerView RAID Manager をインストールするかどうかを指定します。	(チェックあり) = アプリケーションをインストールする
インストール後のスクリプト実行			
	インストール後のスクリプト実行	インストール後にスクリプトを実行するかどうかを指定します。	(チェックあり) = インストール後にスクリプトを実行する
	OS に転送するディレクトリ	インストール後、OS に転送するディレクトリを指定します。	インストール後、OS に転送するディレクトリを指定する。
	実行するスクリプト	実行するスクリプトを指定します。 [注 11]	実行するスクリプトを指定する。

[注 1] : CNA カードの Universal Multi-Channel(UMC)機能が有効になっている場合は、ポート番号ではなく、MAC アドレスを設定してください。

[注 2] : PRIMEQUEST 2000・PRIMEQUEST 3000E シリーズでは、ポート番号による指定ができません。ネットワークポート指定を行う場合、MAC アドレスを指定してください。

[注 3] : アレイコントローラーを使用する場合、BIOS の「Onboard Device Configuration」設定と矛盾がないように設定してください。

[注 4] : PRIMEQUEST 2000・PRIMEQUEST 3000E シリーズでは、iSCSI に対応していません。対応状況は、サーバと ServerView Suite DVD のマニュアルを参照してください。

[注 5] : ServerView Suite DVD V11.16.04 以降を使用した場合、ボリューム名が設定されないことがあります。その場合、ボリューム名を手動で設定してください。

[注 6] : Windows Server 2016 の場合、ボリューム名は半角の英数字・記号で設定してください。

[注 7] : OS でサポートしていない値を設定した場合、デフォルト設定でインストールされます。

[注 8] : 「インストールのタイプ」設定でフルインストールを選択している場合のみインストール可能です。

[注 9] : 「地域と言語」設定で日本語を選択している場合は、アプリケーションが日本語でインストールされます。その他の場合は英語でインストールされます。

[注 10] : 「地域と言語」設定で日本語を選択している場合のみインストール可能です。

[注 11] : Windows の"cmd /c"コマンドにより、指定したスクリプトを実行します。

[注 12] : プロダクトキー、MAC アドレスはポリシーで設定できません。プロファイルを作成する時に設定してください。

OS個別情報タブ

項目名		説明	設定値
インストールメディアタイプ		インストールに使用するメディアの種類を選択します。	常に[OS]タブで指定したインストールメディアとなる。
ユーザー名		ユーザーの名前を入力します。	ユーザー名の文字列を入力する。
組織		ユーザーが属する組織を入力します。	組織の文字列を入力する。
コンピュータ名[注 5]		ネットワーク上で識別するためのコンピュータ名を入力します。	コンピュータ名文字列を入力する。
Administrator パスワード		パスワードを入力します。	パスワード文字列を入力する。
ワークグループ/ドメイン			
	ワークグループ/ドメイン	ワークグループまたはドメインのどちらに参加するかを選択します。	ワークグループ=ワークグループに参加する ドメイン=ドメインに参加する [注 1]
	ワークグループ/ドメイン名	ワークグループまたはドメインの名前を指定します。	文字列を入力する。 [注 2]
	ドメインユーザー名	ドメインの場合、ドメインユーザー名を入力します。	文字列を入力する。
	ドメインパスワード	ドメインの場合、パスワードを入力します。	文字列を入力する。 [注 3]
ネットワーク			
	DHCP	管理 LAN の IP アドレスに関して固定 IP アドレスを	(チェックあり) = DHCP を利用する

項目名		説明	設定値
		指定するか、DHCP を使用するかを選択します。	(チェックなし) = 固定 IP を指定する [注 4]
	IP アドレス[注 5]	DHCP を利用しない場合、固定 IP アドレスを指定します。	IP アドレスを IPv4 形式で入力する。
	サブネットマスク	DHCP を利用しない場合、サブネットマスクを指定します。	サブネットマスクを IPv4 形式で入力する。
	デフォルトゲートウェイ	DHCP を利用しない場合、ゲートウェイを指定します。	ゲートウェイの IP アドレスを IPv4 形式で入力する。
	DNS サーバ 1	DHCP を利用しない場合、DNS サーバ 1 の IP アドレスを指定します。	DNS サーバの IP アドレスを IPv4 形式で入力する。
	DNS サーバ 2	DHCP を利用しない場合、DNS サーバ 1 を設定後、DNS サーバ 2 の IP アドレスを指定します。	DNS サーバの IP アドレスを IPv4 形式で入力する。
	DNS ドメイン名	DHCP を利用しない場合、任意のドメイン名を指定します。	ドメイン名を入力する。

[注 1] : ドメインサーバに接続できない場合、ワークグループに設定されます。

[注 2] : ワークグループ名は、15 文字以下で設定してください。全角は 2 文字、半角は 1 文字としてカウントします。

[注 3] : ドメインユーザー名・ドメインパスワードを誤って指定した場合、プロファイル適用は正常に終了しますが、ドメイン参加に失敗します。この場合、ドメイン参加を再度実行してください。

[注 4] : ポリシーで「DHCP」を (チェックあり) または未設定から (チェックなし) に変更する場合、ポリシーの参照リンクを外した後に、関連付くプロファイルの IP アドレスを設定してください。

[注 5] : コンピュータ名、IP アドレスはポリシーで設定できません。プロファイルを作成する時に設定してください。

3.2. VMware ESXi 用プロファイル

対象 OS は以下のとおりです。

- VMware ESXi 5.5 update3
- VMware ESXi 6.0 update1, update2, update3
- VMware ESXi 6.5 update1
- VMware ESXi 6.5 update2
- VMware ESXi 6.7
- VMware ESXi 6.7 update1
- VMware ESXi 6.7 update2 (ISM 2.4.0.d 以降)

OSタブ

項目名		説明	設定値
インストール設定			
	インストールメディア	インストールに使用するメディアの種類を選択します。	プルダウンから選択する。
	ServerView Suite DVD (最新版数でインストール/版数を指定する)	インストールに使用する ServerView Suite DVD の版数を指定します。	最新版数でインストール＝リポジトリに登録されている中で、最も新しいバージョンの ServerView Suite を使用する 版数を指定する＝指定した版数の ServerView Suite を使用する
管理 LAN ネットワークポート設定			
	ネットワークポート指定	管理 LAN に使用するネットワークのポートを指定します。	(チェックあり) = 管理 LAN のネットワークポートを指定する
	指定方法	管理 LAN のネットワークポートの指定方法を選択します。[注 1] [注 2]	プルダウンから選択する。
	ネットワークカード	指定方法で、「ポート番号」を指定した場合に設定します。	画面から選択する。 PCI カードを選択した場合には、 PCI スロット番号を入

項目名			説明	設定値
			使用するネットワークカードの種類を選択します。	力する。
		ポート番号	指定方法で、「ポート番号」を指定した場合に入力します。	使用するポート番号を入力する。
		MAC アドレス[注 7]	指定方法で、「MAC アドレス」を指定した場合に入力します。	使用するネットワークの MAC アドレスを入力する。
	ブートモード指定		ブートモードを指定します。	(チェックあり) =ブート種別を指定する
		ブート種別	サーバのブートモードを変更した場合、または明示的に指定する場合に選択します。	使用するブートの種別を画面から選択する。
RAID とディスクの構成				
	アレイコントローラーを使用する		サーバ内蔵のアレイコントローラーを OS インストール先として使用する場合に選択します。	(選択時) =アレイコントローラーを使用する[注 3][注 4]
		既存アレイ構成を使用する (RAID を使用しない場合も選択します)	すでにアレイコントローラー上に作成済みのボリュームを使用します。	(選択時) =既存のアレイ構成を使用する
		アレイを新規に構築する	新しくアレイを構築し、その中にボリュームを作成して使用します。	(選択時) =アレイを新規に構築する 加えて、アレイコントローラーの種類、RAID レベル、RAID に組み込むディスクの台数をプルダウンから選択する。
	アレイコントローラーを使用しない		アレイコントローラー以外のドライブを OS インストール先として使用する場合に選択します。	(選択時) =アレイコントローラー以外を使用する 加えて、使用するドライブの種類を画面から選択する。[注 5]

項目名		説明	設定値
基本設定			
	キーボード	キーボードの言語や種類を指定します。	プルダウンから選択する。
ネットワーク			
	セットアップ	VM 標準ネットワークでセットアップするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 標準ネットワークを作成する
	使用する VLAN ID	VLAN ID を入力します。 VLAN を使用しない場合は「0」を入力します。	VLAN ID を入力する。
仮想化管理ソフトへの登録			
	仮想化管理ソフトへの登録	ESXi のインストールが完了したあと、続けて vCenter へ自動的に登録するかどうかを指定します。 自動登録を行う場合、[OS 個別情報]タブで設定する IP アドレスは固定 IP アドレスを設定してください。 また、[OS]タブでは VLAN ID に「0」を指定してください。 [OS 個別情報]タブで、コンピュータ名と DNS ドメイン名を指定した場合、FQDN を使って仮想化管理ソフトウェアへ登録します。 FQDN を使って仮想化管理ソフトウェアへ登録する場合、すべて小文字で登録されます。	(チェックあり) = 登録する (チェックなし) = 登録しない
	登録先仮想化管理ソフト名	登録先の vCenter を指定します。	事前に[設定]-[全般]-左側ツリー部で[仮想化管理ソフトウェア]を選択し、画面に登

項目名		説明	設定値
			録した登録先から選択する。
	ホスト登録先のフォルダー名またはクラスタ名	登録先のフォルダー名またはクラスタ名を指定します。	登録先のフォルダー名またはクラスタ名を指定する。
インストール後のスクリプト実行			
	インストール後のスクリプト実行	インストール後にスクリプトを実行するかどうかを指定します。	(チェックあり) =インストール後にスクリプトを実行する
	スクリプト格納ディレクトリ	インストール後に実行するスクリプトが格納されているディレクトリを指定します。	インストール後に実行するスクリプトが格納されているディレクトリを指定する。
	実行するスクリプト	インストール後に実行するスクリプトを指定します。[注 6]	インストール後に実行するスクリプトを指定する。

[注 1] : CNA カードの Universal Multi-Channel(UMC)機能が有効になっている場合は、ポート番号ではなく、MAC アドレスを設定してください。

[注 2] : PRIMEQUEST 2000・PRIMEQUEST 3000E シリーズでは、ポート番号による指定ができません。ネットワークポート指定を行う場合、MAC アドレスを指定してください。

[注 3] : アレイコントローラーを使用する場合、BIOS の「Onboard Device Configuration」設定と矛盾がないように設定してください。

[注 4] : VMware ESXi では、「オンボード SATA アレイコントローラー」は使用できません。

[注 5] : PRIMEQUEST 2000・PRIMEQUEST 3000E シリーズでは、iSCSI に対応していません。対応状況は、サーバと ServerView Suite DVD のマニュアルを参照してください。

[注 6] : ファイル中にプレーンテキスト形式でスクリプトを記述してください。自動インストール(kickStart)中の%post 処理として実行されます。%firstboot --interpreter=busybox の記述を行うと、%firstboot --interpreter=busybox 処理として実行されます。

[注 7] : MAC アドレスはポリシーで設定できません。プロファイルを作成する時に設定してください。

OS個別情報タブ

項目名		説明	設定値
ライセンス合意		VMware 社のライセンスに合意するか選択します。 必ずチェックを付け、合意したことを示してください。	(チェックあり) = ライセンスに合意する (チェックなし) = ライセンスに合意しない
インストールメディアタイプ		インストールに使用するメディアの種類を選択します。	常に OS タブで指定したインストールメディアとなる。
Root パスワード		パスワードを入力します。	パスワード文字列を入力する。
ネットワーク			
	DHCP	管理 LAN の IP アドレスに関して固定 IP アドレスを指定するか、DHCP を使用するかを選択します。	(チェックあり) = DHCP を利用する (チェックなし) = 固定 IP を指定する [注 2]
	IP アドレス[注 4]	DHCP を利用しない場合、固定 IP アドレスを指定します。	IP アドレスを IPv4 形式で入力する。
	サブネットマスク	DHCP を利用しない場合、サブネットマスクを指定します。	サブネットマスクを IPv4 形式で入力する。
	デフォルトゲートウェイ	DHCP を利用しない場合、ゲートウェイを指定します。	ゲートウェイの IP アドレスを IPv4 形式で入力する。
	DNS サーバ[注 1]	DHCP を利用しない場合、DNS サーバの IP アドレスを指定します。	DNS サーバの IP アドレスを IPv4 形式で入力する。
	DNS ドメイン名	DHCP を利用しない場合、任意のドメイン名を指定します。	ドメイン名を入力する。
	コンピュータ名を DNS サーバから取得	DNS から取得したコンピュータ名を利用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = DNS から取得する (チェックなし) = 任意の

項目名			説明	設定値
			DHCP を利用する場合、コンピュータ名を DNS サーバから取得します。 DHCP を利用しない場合、コンピュータ名を任意に指定します。	コンピュータ名を指定する [注 3]
		コンピュータ名[注 4]	DNS からコンピュータ名（ホスト名）を取得しない場合に任意のコンピュータ名（ホスト名）を指定します。	ホスト名を入力する。

[注 1] : DNS サーバを複数設定したい場合は、インストール後に実行するスクリプトで設定してください。

「esxcli network ip dns server add --server=<DNS サーバの IP アドレス>」を記述することで設定できます。

スクリプト記述例 :

```
#!/bin/sh
%firstboot --interpreter=busybox
esxcli network ip dns server add --server=<DNSサーバのIPアドレス>
```

[注 2] : ポリシーで「DHCP」を（チェックあり）または未設定から（チェックなし）に変更する場合、ポリシーの参照リンクを外した後に、関連付くプロファイルの IP アドレスを設定してください。

[注 3] : ポリシーで「コンピュータ名を DNS サーバから取得」を（チェックあり）または未設定から（チェックなし）に変更する場合、ポリシーの参照リンクを外した後に、関連付くプロファイルのコンピュータ名を設定してください。

[注 4] : IP アドレス、コンピュータ名はポリシーで設定できません。プロファイルを作成する時に設定してください。

3.3. Red Hat Enterprise Linux 用プロファイル

対象 OS は以下のとおりです。

- Red Hat Enterprise Linux 6.6 (for x86)
- Red Hat Enterprise Linux 6.6 (for Intel64)
- Red Hat Enterprise Linux 6.7 (for x86)
- Red Hat Enterprise Linux 6.7 (for Intel64)
- Red Hat Enterprise Linux 6.8 (for x86)

- Red Hat Enterprise Linux 6.8 (for Intel64)
- Red Hat Enterprise Linux 6.9 (for x86)
- Red Hat Enterprise Linux 6.9 (for Intel64)
- Red Hat Enterprise Linux 6.10 (for x86)
- Red Hat Enterprise Linux 6.10 (for Intel64)
- Red Hat Enterprise Linux 7.1 (for Intel64)
- Red Hat Enterprise Linux 7.2 (for Intel64)
- Red Hat Enterprise Linux 7.3 (for Intel64)
- Red Hat Enterprise Linux 7.4 (for Intel64)
- Red Hat Enterprise Linux 7.5 (for Intel64)
- Red Hat Enterprise Linux 7.6 (for Intel64)
- Red Hat Enterprise Linux 8.0 (for Intel64) (ISM 2.4.0.d 以降)

OSタブ

項目名		説明	設定値
インストール設定			
	インストールメディア	インストールに使用するメディアの種類を選択します。	プルダウンから選択する。
	ServerView Suite DVD (最新版数でインストール/版数を指定する)	インストールに使用する ServerView Suite DVD の版数を指定します。	最新版数でインストール＝リポジトリに登録されている中で、最も新しいバージョンの ServerView Suite を使用する 版数を指定する＝指定した版数の ServerView Suite を使用する
管理 LAN ネットワークポート設定			
	ネットワークポート指定	管理 LAN に使用するネットワークのポートを指定します。	(チェックあり) = 管理 LAN のネットワークポートを指定する
	指定方法	管理 LAN のネットワークポートの指定方法を選択します。[注 1] [注 2]	プルダウンから選択する。
	ネットワークカード	指定方法で、「ポート番号」を指定した場合に設定します。 使用するネットワークカ	画面から選択する。 PCI カードを選択した場合には、 PCI スロット番号を入力する。

項目名			説明	設定値
			ードの種類を選択します。	
		ポート番号	指定方法で、「ポート番号」を指定した場合に入力します。	使用するポート番号を入力する。
		MAC アドレス[注 9]	指定方法で、「MAC アドレス」を指定した場合に入力します。	使用するネットワークの MAC アドレスを入力する。
	ブートモード指定		ブートモードを指定します。	(チェックあり) =ブート種別を指定する
		ブート種別	サーバのブートモードを変更した場合、または明示的に指定する場合に選択します。	使用するブートの種別を画面から選択する。
基本設定				
	地域と言語		言語を指定します。	プルダウンから選択する。
	キーボード		キーボード種類を指定します。	プルダウンから選択する。
	タイムゾーン		タイムゾーンを指定します。	プルダウンから選択する。
		システムクロックで UTC を使用	システムクロックとして使用する時刻の種類を指定します。	(チェックあり) =UTC を使用 (チェックなし) =ローカルタイムを使用
RAID とディスクの構成				
	アレイコントローラーを使用する		サーバ内蔵のアレイコントローラーを OS インストール先として使用する場合に選択します。	(選択時) =アレイコントローラーを使用する
		既存アレイ構成を使用する (RAID を使用しない場合も選択します)	すでにアレイコントローラー上に作成済みのボリュームを使用します。	(選択時) =既存のアレイ構成を使用する
		アレイを新規に構築する	新しくアレイを構築し、その中にボリュームを作成して使用します。	(選択時) =アレイを新規に構築する 加えて、アレイコントロー

項目名		説明	設定値
			ラーの種類、RAID レベル、RAID に組み込むディスクの台数を画面から選択する。
	アレイコントローラーを使用しない	アレイコントローラー以外のドライブを OS インストール先として使用する場合に選択します。	(選択時) =アレイコントローラー以外を使用する 加えて、使用するドライブの種類を画面から選択する。[注 3]
パーティション		下記の項目を「プロファイル」画面に表示された /boot、/var などの各マウントポイントに対して指定します。	
	(各マウントポイント左のチェックボックス)	マウントポイントに対して独立したパーティションを作成するかどうかを指定します。	(チェックあり) =パーティションを作成する (チェックなし) =パーティションを作成しない
	ファイルシステムタイプ	ファイルシステムの種類を指定します。	プルダウンから選択する。 例 : ext2, ext3, ext4
	サイズ	パーティションの容量を指定します。	数値を 10 進数で入力する。
	最大許容量まで使用	余ったディスク容量を指定したパーティションに割り当ててるかどうかを指定します。 Linux インストール後に空き領域に別途パーティションを作成する場合は、本指定は行いません。	(チェックあり) =指定のパーティションに余った容量を割り当てて容量を拡大 (チェックなし) =指定した容量でパーティションを作成
パッケージ選択			
	パッケージ選択の初期値	インストールするパッケージとして画面に表示されるパッケージグループと個別パッケージの初期	最小=必要最小限のパッケージ 全て=すべてのパッケージ [注 4]

項目名		説明	設定値
		選択を変更します。	デフォルト＝推奨パッケージ[注 4]
	パッケージグループ	インストールするパッケージグループを指定します。	(チェックあり)＝インストールする (チェックなし)＝インストールしない
	個別パッケージ	インストールするパッケージ名を個別に指定します。	パッケージ名を文字列で入力する。 1 行あたり 1 パッケージで複数行の記述が可能。
ブートローダーオプション			
	ブートローダーをインストール	ブートローダーをインストールするかどうかを設定します。	(チェックあり)＝ブートローダーをインストールする 本項目は常にチェック状態となる。
	ブートローダーのインストール場所	ブートローダーのインストール先を指定します。	MBR＝マスタブートレコードにインストールする 本項目は常に「MBR」に設定される。
	カーネルパラメーター	カーネルパラメーターを指定します。	カーネルパラメーターとして指定する文字列を入力する。 【省略可】
Security-Enhanced Linux			
	SE Linux	SE Linux の使用有無を指定します。	プルダウンで以下から選択する。 Enforcing, Disabled, Permissive
認証			
	シャドウパスワードの使用	シャドウパスワードを使用するかどうかを指定します。	(チェックあり)＝使用する (チェックなし)＝使用しない[注 5]
	MD5 の使用	パスワード暗号化に MD5 を使用するかどうかを指	(チェックあり)＝使用する

項目名		説明	設定値
		定めます。	(チェックなし) = 使用しない
	nscd の有効	Name Switch Cache を使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 使用する (チェックなし) = 使用しない
アプリケーション		OS インストール後に自動的にインストールするアプリケーションを指定します。	
	アプリケーション選択 (各種アプリケーション)	インストールするアプリケーションを指定します。 アプリケーションの種類はディストリビューションによって異なります。[注 6]	(チェックあり) = アプリケーションをインストールする
インストール後のスクリプト実行			
	インストール後のスクリプト実行	インストール後にスクリプトを実行するかどうかを指定します。	(チェックあり) = インストール後にスクリプトを実行する
	OS に転送するディレクトリ	インストール後、OS に転送するディレクトリを指定します。	インストール後、OS に転送するディレクトリを指定する。
	実行するスクリプト	実行するスクリプトを指定します。[注 7] [注 8]	実行するスクリプトを指定する。

[注 1] : CNA カードの Universal Multi-Channel(UMC)機能が有効になっている場合は、ポート番号ではなく、MAC アドレスを設定してください。

[注 2] : PRIMEQUEST 2000・PRIMEQUEST 3000E シリーズでは、ポート番号による指定ができません。ネットワークポート指定を行う場合、MAC アドレスを指定してください。

[注 3] : PRIMEQUEST 2000・PRIMEQUEST 3000E シリーズでは、iSCSI に対応していません。対応状況は、サーバと ServerView Suite DVD のマニュアルを参照してください。

[注 4] : ServerView Suite DVD V11.16.04 以降を使用した場合、インストールされないパッケージグループがあります。その場合、手動でインストールしてください。

[注 5] : 「シャドウパスワード」は、プロファイル設定に関わらず常に有効になります。

[注 6] : 下表のアプリケーションは ServerView Suite DVD V11.16.04、V12.16.10 を使用し

た場合です。将来的に ServerView Suite DVD の改版によって変更されることがあります。

凡例：○=ISM で指定可、×=ISM で指定不可

アプリケーション	RHEL 6.x (x86)	RHEL 6.x (Intel64)	RHEL 7.x	RHEL 8.x (ISM 2.4.0.d 以降)
ServerView Agentless Service	×	○	○	×
ServerView SNMP Agents	○	○	○	○
ServerView CIM Providers	×	○	○	○
ServerView Update Agent (online flash)	○	○	○	×
ServerView Operations Manager (注：インストール時には、 SELinux を Disabled に設定)	○	○	○	×
ServerView RAID Manager	○	○	○	×
AIS Connect (注：ServerView Suite DVD V12.16.10 以降では設定不可)	○	○	×	×
Java Runtime Environment	○	○	○	×
Dynamic Reconfiguration utility PRIMEQUEST 2000 ・ PRIMEQUEST 3000E 用	×	○	○	×
PRIMEQUEST REMCS Option PRIMEQUEST 2000 ・ PRIMEQUEST 3000E 用	×	○	○	×
HBA blockage function PRIMEQUEST 2000 ・ PRIMEQUEST 3000E 用	×	○	○	×
SIRMS エージェント PRIMEQUEST 2000 ・ PRIMEQUEST 3000E 用	○	○	○	×
ServerView Mission Critical Option PRIMEQUEST 2000 ・ PRIMEQUEST 3000E 用	×	○	○	×

[注 7] : スクリプトから、ほかのスクリプトを実行する場合、実行権限を付与し、呼び出してください。

[注 8] : `sh` コマンドにより、指定したスクリプトを実行します。

[注 9] : `MAC` アドレスはポリシーで設定できません。プロファイルを作成する時に設定してください。

OS個別情報タブ

項目名		説明	設定値
インストールメディアタイプ		インストールに使用するメディアの種類を選択します。	常に OS タブで指定したインストールメディアとなる。
Root パスワード		パスワードを入力します。	パスワード文字列を入力する。
ネットワーク			
	コンピュータ名を DNS サーバから取得	DNS から取得したコンピュータ名を利用するかどうかを指定します。	(チェックあり) =DNS から取得する (チェックなし) =任意のコンピュータ名を指定する [注 1]
	コンピュータ名[注 3]	DNS からコンピュータ名 (ホスト名) を取得しない場合に、任意のホスト名を指定します。	ホスト名を入力する。
	DHCP	管理 LAN の IP アドレスに対して固定 IP アドレスを指定するか、DHCP を使用するかを選択します。	(チェックあり) =DHCP を利用する (チェックなし) =固定 IP を指定する [注 2]
	IP アドレス[注 3]	DHCP を利用しない場合、固定 IP アドレスを指定します。	IP アドレスを IPv4 形式で入力する。
	サブネットマスク	DHCP を利用しない場合、サブネットマスクを指定します。	サブネットマスクを IPv4 形式で入力する。
	デフォルトゲートウェイ	DHCP を利用しない場合、デフォルトゲートウェイを指定します。	ゲートウェイの IP アドレスを IPv4 形式で入力する。
	DNS サーバ	DHCP を利用しない場合、DNS サーバの IP アドレスを指定します。	DNS サーバの IP アドレスを IPv4 形式で入力する。

[注 1]: ポリシーで「コンピュータ名を DNS サーバから取得」を（チェックあり）または未設定から（チェックなし）に変更する場合、ポリシーの参照リンクを外した後に、関連付くプロファイルのコンピュータ名を設定してください。

[注 2]: ポリシーで「DHCP」を（チェックあり）または未設定から（チェックなし）に変更する場合、ポリシーの参照リンクを外した後に、関連付くプロファイルの IP アドレスを設定してください。

[注 3]: コンピュータ名、IP アドレスはポリシーで設定できません。プロファイルを作成する時に設定してください。

3.4. SUSE Linux Enterprise Server 用プロファイル

対象 OS は以下のとおりです。

- SUSE Linux Enterprise Server 11 SP4 (for x86)
- SUSE Linux Enterprise Server 11 SP4 (for AMD64 & Intel64)
- SUSE Linux Enterprise Server 12 (for AMD64 & Intel64)
- SUSE Linux Enterprise Server 12 SP1 (for AMD64 & Intel64)
- SUSE Linux Enterprise Server 12 SP2 (for AMD64 & Intel64)
- SUSE Linux Enterprise Server 12 SP3 (for AMD64 & Intel64)
- SUSE Linux Enterprise Server 12 SP4 (for AMD64 & Intel64)
- SUSE Linux Enterprise Server 15 (for AMD64 & Intel64)
- SUSE Linux Enterprise Server 15 SP1 (for AMD64 & Intel64) (ISM 2.4.0.d 以降)

OSタブ

項目名	説明	設定値
インストール設定		
インストールメディア	インストールに使用するメディアの種類を選択します。	プルダウンから選択する。
ServerView Suite DVD (最新版数でインストール/版数を指定する)	インストールに使用する ServerView Suite DVD の版数を指定します。	最新版数でインストール＝リポジトリに登録されている中で、最も新しいバージョンの ServerView Suite を使用する 版数を指定する＝指定した版数の ServerView Suite を使用する
管理 LAN ネットワークポート設定		

項目名		説明	設定値
ネットワークポート指定		管理 LAN に使用するネットワークのポートを指定します。	(チェックあり) = 管理 LAN のネットワークポートを指定する
	指定方法	管理 LAN のネットワークポートの指定方法を選択します。[注 1][注 2]	プルダウンから選択する。
	ネットワークカード	指定方法で、「ポート番号」を指定した場合に設定します。 使用するネットワークカードの種類を選択します。	画面から選択する。 PCI カードを選択した場合には、 PCI スロット番号を入力する。
	ポート番号	指定方法で、「ポート番号」を指定した場合に入力します。	使用するポート番号を入力する。
	MAC アドレス[注 12]	指定方法で、「MAC アドレス」を指定した場合に入力します。	使用するネットワークの MAC アドレスを入力する。
ブートモード指定		ブートモードを指定します。	(チェックあり) = ブート種別を指定する
	ブート種別	サーバのブートモードを変更した場合、または明示的に指定する場合に選択します。	使用するブートの種別を画面から選択する。
基本設定			
	地域と言語	言語を指定します。	プルダウンから選択する。
	キーボード	キーボード種類を指定します。	プルダウンから選択する。
	タイムゾーン	タイムゾーンを指定します。	プルダウンから選択する。
	システムクロックで UTC を使用	システムクロックとして使用する時刻の種類を指定します。	(チェックあり) = UTC を使用 (チェックなし) = ローカルタイムを使用
RAID とディスクの構成			
	アレイコントローラーを使	サーバ内蔵のアレイコン	(選択時) = アレイコント

項目名		説明	設定値
	用する	トローラーをOSインストール先として使用する場合に選択します。	ローラーを使用する[注 3]
	既存アレイ構成を使用する (RAID を使用しない場合も選択します)	すでにアレイコントローラー上に作成済みのボリュームを使用します。	(選択時) = 既存のアレイ構成を使用する
	アレイを新規に構築する	新しくアレイを構築し、その中にボリュームを作成して使用します。	(選択時) = アレイを新規に構築する 加えて、アレイコントローラーの種類、RAID レベル、RAID に組み込むディスクの台数を画面から選択する。
	アレイコントローラーを使用しない	アレイコントローラー以外のドライブをOSインストール先として使用する場合に選択します。	(選択時) = アレイコントローラー以外を使用する 加えて、使用するドライブの種類を画面から選択する。[注 4]
パーティション		下記の項目を「プロファイル」画面に表示された /boot、/var などの各マウントポイントに対して指定します。	
	(各マウントポイント左のチェックボックス)	マウントポイントに対して独立したパーティションを作成するかどうかを指定します。	(チェックあり) = パーティションを作成する (チェックなし) = パーティションを作成しない
	ファイルシステムタイプ	ファイルシステムの種類を指定します。	プルダウンから選択する。 例 : ext2, ext3, ext4 [注 5] [注 13]
	サイズ	パーティションの容量を指定します。	数値を 10 進数で入力する。
	最大許容量まで使用	余ったディスク容量を指定したパーティションに	(チェックあり) = 指定のパーティションに余った容

項目名	説明	設定値
	割り当てかどうかを指定します。 Linux インストール後に空き領域に別途パーティションを作成する場合は、本指定は行いません。	量を割り当てて容量を拡大 (チェックなし) = 指定した容量でパーティションを作成
パッケージ選択		
パッケージ選択の初期値	インストールするパッケージとして画面に表示されるパッケージグループと個別パッケージの初期選択を変更します。	最小=必要最小限のパッケージ 全て=すべてのパッケージ デフォルト=推奨パッケージ
パッケージグループ [注 6] [注 11] [注 14]	インストールするパッケージグループを指定します。	(チェックあり) = インストールする (チェックなし) = インストールしない
個別パッケージ	インストールするパッケージ名を個別に指定します。	パッケージ名を文字列で入力する。 1 行あたり 1 パッケージで複数行の記述が可能。
ブートローダーオプション		
ブートローダをインストール	ブートローダをインストールするかどうかを設定します。	(チェックあり) = ブートローダをインストールする 本項目は常にチェック状態となる。
ブートローダのインストール場所	ブートローダのインストール先を指定します。	MBR=マスタブートレコードにインストールする 本項目は常に「MBR」に設定される。
カーネルパラメーター	カーネルパラメーターを指定します。	カーネルパラメーターとして指定する文字列を入力する。 【省略可】
Security-Enhanced Linux		
SE Linux	SE Linux の使用有無を指	本項は常に「Disabled」に設

項目名		説明	設定値
		定めます。	定される。
認証			
	シャドウパスワードの使用	シャドウパスワードを使用するかどうかを指定します。	本項は常に「チェックあり（使用する）」に設定される。
	MD5 の使用	パスワード暗号化に MD5 を使用するかどうかを指定します。	本項は常に「チェックなし（使用しない）」に設定される。
	nscd の有効	Name Switch Cache を使用するかどうかを指定します。	本項は常に「チェックあり（使用する）」に設定される。
アプリケーション		OS インストール後に自動的にインストールするアプリケーションを指定します。	
	アプリケーション選択 (各種アプリケーション)	インストールするアプリケーションを指定します。 アプリケーションの種類はディストリビューションによって異なります。 [注 7]	(チェックあり) = アプリケーションをインストールする
インストール後のスクリプト実行 [注 8]			
	インストール後のスクリプト実行	インストール後にスクリプトを実行するかどうかを指定します。	(チェックあり) = インストール後にスクリプトを実行する
	OS に転送するディレクトリ	インストール後、OS に転送するディレクトリを指定します。	インストール後、OS に転送するディレクトリを指定する。
	実行するスクリプト	実行するスクリプトを指定します。[注 9] [注 10]	実行するスクリプトを指定する。

[注 1] : CNA カードの Universal Multi-Channel(UMC)機能が有効になっている場合は、ポート番号ではなく、MAC アドレスを設定してください。

[注 2] : PRIMEQUEST 2000・PRIMEQUEST 3000E シリーズでは、ポート番号による指定ができません。ネットワークポート指定を行う場合、MAC アドレスを指定してください。

[注 3] : アレイコントローラーを使用する場合、BIOS の「Onboard Device Configuration」設定と矛盾がないように設定してください。

[注 4] : PRIMEQUEST 2000・PRIMEQUEST 3000E シリーズでは、iSCSI に対応していません。対応状況は、サーバと ServerView Suite DVD のマニュアルを参照してください。

[注 5] : SLES 11 SP4 では、ext4 は Read のみ対応しています。SLES 12 では、ext4 が Read/Write 両方可能ですが、SLES として正式サポートの対象ではありません。

[注 6] : SLES 12 では、パッケージグループに「X Windows System」が指定されていない場合も、コンソールで起動しません。[Ctrl]+[Alt]+[F1]を押すと、コンソールからログインできます。

[注 7]: 下表のアプリケーションは ServerView Suite DVD V11.16.04、V12.16.10、V12.18.08 を使用した場合です。将来的に ServerView Suite DVD の改版によって変更される場合があります。

SLES15 系①は ServerView Suite DVD V13.19.01 以前を使用した場合、SLES 15 系②は ServerView Suite DVD V13.19.04 以降を使用した場合です (ISM 2.4.0.d 以降)。

凡例 : ○=ISM で指定可、×=ISM で指定不可

アプリケーション	SLES 11 SP4(x86)	SLES 11 SP4 (Intel64)	SLES 12 系	SLES 15 系①	SLES 15 系②
ServerView Agentless Service	×	○	○	×	×
ServerView SNMP Agents	○	○	○	×	○
ServerView CIM Providers	×	×	×	×	○
ServerView Update Agent (online flash)	○	○	○	×	○
ServerView Operations Manager	×	×	×	×	×
ServerView RAID Manager	○	○	○	○	○
AIS Connect (注 : ServerView Suite DVD V12.16.10 以降では設定不可)	×	×	×	×	×
Java Runtime Environment	○	○	○	○	○

アプリケーション	SLES 11 SP4(x86)	SLES 11 SP4 (Intel64)	SLES 12 系	SLES 15 系①	SLES 15 系②
Dynamic Reconfiguration utility PRIMEQUEST 2000・ PRIMEQUEST 3000E 用	×	×	○	×	×
PRIMEQUEST REMCS Option PRIMEQUEST 2000・ PRIMEQUEST 3000E 用	×	×	×	×	×
HBA blockage function PRIMEQUEST 2000・ PRIMEQUEST 3000E 用	×	×	×	×	×
SIRMS エージェント PRIMEQUEST 2000・ PRIMEQUEST 3000E 用	×	×	×	×	×
ServerView Mission Critical Option PRIMEQUEST 2000・ PRIMEQUEST 3000E 用	×	×	×	×	×

[注 8] : SLES 12 では、インストール後のスクリプト実行に対応していません。

[注 9] : スクリプトから、ほかのスクリプトを実行する場合、実行権限を付与し、呼び出してください。

[注 10] : sh コマンドにより、指定したスクリプトを実行します。

[注 11] : SLES をインストールしたサーバを ISM で管理する場合、「GNOME Basic」と「SAP Application Server Base」を指定してください。

[注 12] : MAC アドレスはポリシーで設定できません。プロファイルを作成する時に設定してください。

[注 13] : SLES 12 では、パーティション / 、/home、/var、/user、/opt、/tmp のファイルシステムに vfat を指定できません。

SLES 15 では、パーティション / 、/var、/tmp のファイルシステムに vfat を指定できません。

[注 14] : SLES 12 では、パッケージグループに「KVM Server」を指定すると、意図しない IP アドレスが設定されることがあります。その場合、手動で IP アドレスを設定してください。

OS個別情報タブ

項目名		説明	設定値
インストールメディアタイプ		インストールに使用するメディアの種類を選択します。	常に OS タブで指定したインストールメディアとなる。
Root パスワード		パスワードを入力します。	パスワード文字列を入力する。
ネットワーク			
	コンピュータ名を DNS サーバから取得	DNS から取得したコンピュータ名を利用するかどうかを指定します。	(チェックあり) =DNS から取得する (チェックなし) =任意のコンピュータ名を指定する [注 1]
	コンピュータ名[注 3]	DNS からコンピュータ名 (ホスト名) を取得しない場合に、任意のホスト名を指定します。	ホスト名を入力する。
	DHCP	管理 LAN の IP アドレスに対して固定 IP アドレスを指定するか、DHCP を使用するかを選択します。	(チェックあり) =DHCP を利用する (チェックなし) =固定 IP を指定する [注 2] [注 4]
	IP アドレス[注 3]	DHCP を利用しない場合、固定 IP アドレスを指定します。	IP アドレスを IPv4 形式で入力する。
	サブネットマスク	DHCP を利用しない場合、サブネットマスクを指定します。	サブネットマスクを IPv4 形式で入力する。
	デフォルトゲートウェイ	DHCP を利用しない場合、デフォルトゲートウェイを指定します。	ゲートウェイの IP アドレスを IPv4 形式で入力する。
	DNS サーバ	DHCP を利用しない場合、DNS サーバの IP アドレスを指定します。	DNS サーバの IP アドレスを IPv4 形式で入力する。

[注 1]: ポリシーで「コンピュータ名を DNS サーバから取得」を（チェックあり）または未設定から（チェックなし）に変更する場合、ポリシーの参照リンクを外した後に、関連付くプロファイルのコンピュータ名を設定してください。

[注 2]: ポリシーで「DHCP」を（チェックあり）または未設定から（チェックなし）に変更する場合、ポリシーの参照リンクを外した後に、関連付くプロファイルの IP アドレスを設定してください。

[注 3]: コンピュータ名、IP アドレスはポリシーで設定できません。プロファイルを作成する時に設定してください。

[注 4]: SLES 12 では、パッケージグループに「KVM Server」を指定すると、意図しない IP アドレスが設定されることがあります。その場合、手動で IP アドレスを設定してください。

4. PRIMERGY サーバ / PRIMEQUEST 3000E パーティション用プロファイルの仮想 IO 設定項目

4.1. カード設定

使用したいカード数分設定します。

項目名	説明	設定値
オンボードカードスロット数	オンボード数を選択します。	プルダウンから選択する。
PCI カードスロット数	使用するカード数を選択します。	プルダウンから選択する。
カードスロット		
オンボードスロット		
カードタイプ	使用する種別を選択します。	画面から選択する。
ポート数	使用するポート数を選択します。	プルダウンから選択する。
PCI カード		
カードタイプ	使用する種別を選択します。	画面から選択する。
ポート数	使用するポート数を選択します。	プルダウンから選択する。

注意

- 仮想IOの設定は、サーバに搭載されているLAN、FC、CNA のカード/ボードすべてに仮想アドレスを割り当てて使用してください。一部のカード/ボードや一部のポートだけに仮想アドレスを割り当てるといった部分的な割当て運用はサポートしていません。
- 仮想IOの設定は、プロファイル編集で設定から除外したカード/ボード(カード/ボード数を0に設定したものを含む)は使用できない状態になります。基本的にOSから認識されなくなります(OSやドライバによっては認識表示される場合があります)。
- 仮想IOの設定はiRMCに保存されるため、iRMCの電源がオンの場合に有効です。iRMCの電力が喪失（すべての電源ケーブルの切断、またはデータセンターでの電力喪失）したとき、iRMCは仮想IO設定を失います。AC電源が復帰し、iRMCが再びブートされたとき、仮想IO設定を再適用します。iRMCの電力が喪失した場合、iRMCの仮想IOの設定もなくなります。再度仮想IOの設定を有効にするには、プロファイルを再適用してください。
- PRIMEQUEST3000E パーティションのPCIカードスロットは、スロット実装位置とスロット

ト番号が異なります。仮想IOの設定では、実装位置ではなくスロット番号で指定してください。対応関係については、PRIMEQUEST3000の運用管理マニュアルの「D.2 PCI Express スロット実装位置とスロット番号の対応」を参照してください。

<http://www.fujitsu.com/jp/products/computing/servers/primequest/products/3000/catalog/manual/3000/>

4.2. ポート設定

「4.1 カード設定」で設定したカード数分の設定が必要です。

以下のカードごとの設定では、カードタイプ別の設定値について説明します。

項目名	説明	設定値
ポート情報		
仮想アドレスを使用する	仮想アドレスを使用する場合に選択します。	(チェックあり) = 仮想アドレスを使用する
SR-IOV を使用する	SR-IOV を使用する場合に選択します。	(チェックあり) = SR-IOV を使用する
ブートメニュー非表示 (F12)	ブートメニューを非表示にする場合に選択します。	(チェックあり) = ブートメニューを非表示にする
UEFI ブートモード	使用するブートモードを選択します。[注 1]	画面から選択する。[注 2]
カードタイプが CNA の場合		
機能タイプ	CNA の Function を選択します。	プルダウンから選択する。
Boot	ブート方法を選択します。	プルダウンから選択する。
SR-IOV	SR-IOV を有効にする場合に選択します。	(チェックあり) = SR-IOV を有効にする
RoCE	RoCE 設定を選択します。 [注 3] [注 4] [注 5]	プルダウンから選択する。
カードタイプが LAN の場合		
機能タイプ	LAN の Function を選択します。	常に LAN となる。
Boot	ブート方法を選択します。	プルダウンから選択する。
SR-IOV	SR-IOV を有効にする場合に選択します。	(チェックあり) = SR-IOV を有効にする
RoCE	RoCE 設定を選択します。 [注 4] [注 5]	プルダウンから選択する。
カードタイプが FC の場合		

項目名	説明	設定値
機能タイプ	FC の Function を選択します。	常に FC となる。
Boot	ブート方法を設定します。	プルダウンから選択する。
SR-IOV	SR-IOV を有効にする場合に選択します。	(チェックあり)=SR-IOV を有効にする
SMUX 設定[注 6]	SMUX 設定を選択します。	画面から選択する。

[注 1]:PRIMEQUEST 3000E パーティションの場合は、「UEFI のみ」を選択してください。

[注 2]: 本設定の設定値は、BIOS の CSM Configuration の設定に反映します。具体的な設定は以下を参照してください。

BIOS 設定		仮想 IO[UEFI ブートモード]			
CSM Configuration		レガシー優先	レガシーのみ	UEFI 優先	UEFI のみ
Boot option filter		UEFI and Legacy もしくは Legacy only (「UEFI and Legacy」の選択肢がない場合)	Legacy only	UEFI and Legacy もしくは UEFI only (「UEFI and Legacy」の選択肢がない場合)	UEFI only
Launch PXE OpROM Policy		Legacy only	Legacy only	UEFI only	UEFI only
Launch Storage OpROM policy		Legacy only	Legacy only	UEFI only	UEFI only
Other PCI device ROM priority		Legacy only	Legacy only	UEFI only	UEFI only

[注 3]: [機能タイプ]が「LAN」の場合のみ設定できます。

[注 4]: 本項目を設定する場合、「仮想アドレスを使用する」にチェックを入れてください。

[注 5]: 本項目を設定する場合、「SR-IOV」のチェックを外してください。

[注 6]: サーバが PRIMERGY BX の場合のみ設定できます。

注意

ローカルディスク(SATA、または SAS)へ OS インストールを行う場合、仮想 IO で Boot 設定は利用できません。プロファイル適用前に手動でサーバの PXE ブートが優先となるようにサーバのブート順を変更してください。

4.3. ブート設定

ブート優先順を変更する場合は、各項目の右側にある矢印ボタンを使用してください。
オンボードのポート数、および PCI カード数・ポート数は、「4.1 カード設定」および「4.2 ポート設定」で設定した数分、設定してください。

以下では、オンボード・PCI カード問わず、機能タイプ別の設定値について説明します。

項目名		説明	設定値
機能タイプが LAN の場合			
	IP プロトコル	IP プロトコルについて選択します。	画面から選択する。
機能タイプが FCoE の場合			
	接続速度	接続速度を選択します。	プルダウンから以下を選択する。 自動、1 Gbit/s、2 Gbit/s、4 Gbit/s、 8 Gbit/s、16 Gbit/s [注 1]
	接続タイプ	接続形態を選択します。	画面から選択する。
第 1 ターゲット			
	ポート名 (WWPN)	SAN ブートで起動するストレージの WWPN を入力します。	WWPN を入力する。
	LUN	SAN ブートで起動するストレージの LUN を入力します。	LUN を入力する。
第 2 ターゲット			
	ポート名 (WWPN)	SAN ブートで起動するストレージの WWPN を入力します。	WWPN を入力する。
	LUN	SAN ブートで起動するストレージの LUN を入力します。	LUN を入力する。
機能タイプが iSCSI の場合			
	イニシエータパラメーター		
	アドレス設定	イニシエータのアドレス取得方法を選択します。	画面から選択する
	イニシエータ名	イニシエータの IQN を入	IQN を入力する。

項目名		説明	設定値
		力します。	入力する文字列は、先頭および、末尾が英数字、それ以外は、英数字および記号(ピリオド"."、コロン":"およびハイフン"-")で構成された223文字以内とする。
	VLAN ID	HBA が要求を送信するために使用される VLAN ID を入力します。	VLAN ID を入力する。
	IPv4	アドレス設定で「固定」を選択した場合、イニシエータで使用する IP アドレスを入力します。	IP アドレスを入力する。
	サブネットマスク	アドレス設定で「固定」を選択した場合、サブネットマスクを入力します。	サブネットマスクを入力する。
	ゲートウェイアドレス	アドレス設定で「固定」を選択した場合、ゲートウェイのアドレスを入力します。	ゲートウェイのアドレスを入力する。
	ターゲットパラメーター		
	IP アドレス	ターゲットのアドレス取得方法を選択します。	画面から選択する。
	ターゲット名	ターゲットの IQN を入力します。	IQN を入力する。 入力する文字列は、先頭および、末尾が英数字、それ以外は、英数字および記号(ピリオド"."、コロン":"およびハイフン"-")で構成された223文字以内とする。
	IPv4	IP アドレスで「固定」を選択した場合、ターゲットで使用する IP アドレスを入力します。	IP アドレスを入力する。
	ポート(opt)	IP アドレスで「固定」を選	ポート番号を入力する。

項目名		説明	設定値
		択した場合、ターゲットのポート番号を入力します。	
	LUN	IP アドレスで「固定」を選択した場合、ターゲットの LUN 番号を入力します。	LUN 番号を入力する。
	認証方式	認証方式を選択します。	画面から選択する。
	CHAP ユーザー名	認証方式で、「CHAP」または「Mutual CHAP」を選択した場合、認証ユーザー名を入力します。	認証ユーザー名を入力する。 文字列は、半角英数字および記号で構成された 127 文字以内とする[注 2]。
	CHAP パスワード	認証方式で、「CHAP」または「Mutual CHAP」を選択した場合、CHAP 認証に使用するパスワードを入力します。	パスワードを入力する。 文字列は、半角英数字および記号で構成された 12 以上 16 文字以内とする[注 2]。
	Mutual CHAP パスワード	認証方式で、「Mutual CHAP」を選択した場合、Mutual CHAP 認証に使用するパスワードを入力します。	パスワードを入力する。 文字列は、半角英数字および記号で構成された 12 以上 16 文字以内とする[注 2]。

[注 1]：設定したい接続速度が設定値にない場合、設定値に「自動」を選択してください。

[注 2]：ハードウェアのモデルによっては記号が使用できない場合があります。半角英数字のみを使用することを推奨します。

4.4. CNA 設定

「4.1 カード設定」でオンボードまたは PCI カードのカードタイプに、「CNA」を指定した場合に設定します。

「4.2 ポート設定」で設定した、CNA の機能タイプ数分設定します。

機能タイプ別の設定値について説明します。

項目名		説明	設定値
機能タイプが FCoE の場合			
	最少帯域幅[%]	帯域幅の最小値を入力します。	帯域幅の最小値を入力する。[注 1]

項目名		説明	設定値
	最大帯域幅[%]	帯域幅の最大値を入力します。	帯域幅の最大値を入力する。[注 1]
機能タイプが LAN または iSCSI の場合			
	最少帯域幅[%]	帯域幅の最小値を入力します。	帯域幅の最小値を入力する。[注 1]
	最大帯域幅[%]	帯域幅の最大値を入力します。	帯域幅の最大値を入力する。[注 1]
	VLAN ID	VLAN ID を入力します。	VLAN ID を入力する。

[注 1] : 1 つの IO チャンネルのすべての合計が 100 になるように設定します。

1 つの IO チャンネルのすべての帯域幅の合計が 100 でない場合、帯域幅の値はそれに応じて内部で調整されます。

4.5. 仮想アドレス設定

「4.1 カード設定」で入力したカード情報数分設定します。

カードタイプ別の設定値について説明します。

項目名		説明	設定値
カードタイプが LAN の場合			
	仮想アドレス割り当て	仮想アドレス割り当てを行う場合に選択します。	(チェックあり)=仮想アドレスを割り当てる
	仮想アドレス[注 1]		
	自動割り当て	プール管理からの自動割り当てを有効にする場合に選択します。	(チェックあり)=自動割り当てを有効にする
	MAC[注 2]	仮想 MAC アドレスを入力します。	仮想 MAC アドレスを入力する。 2 桁ずつの半角英数字をコロン(:)またはハイフン(-)で区切る。
カードタイプが FC の場合			
	仮想アドレス割り当て	仮想アドレス割り当てを行う場合に選択します。	(チェックあり)=仮想アドレスを割り当てる
	仮想アドレス[注 1]		
	自動割り当て	プール管理からの自動割り当てを有効にする場合に選	(チェックあり)=自動割り当てを有効にする

項目名		説明	設定値
		扱します。	
	WWNN[注 2]	仮想 WWNN を入力します。	仮想 WWNN を入力する。 2 桁ずつの半角英数字を コロン(:)で区切る。
	WWPN[注 2]	仮想 WWPN を入力します。	仮想 WWPN を入力する。 2 桁ずつの半角英数字を コロン(:)で区切る。
カードタイプが CNA の場合			
	仮想アドレス割り当て	仮想アドレス割り当てを行 う場合に選択します。	(チェックあり)=仮想ア ドレスを割り当てる
	仮想アドレス[注 1]		
	自動割り当て	プール管理からの自動割り 当てを有効にする場合に選 択します。	(チェックあり)=自動割 り当てを有効にする
	WWNN[注 2]	機能タイプが「FCoE」の場 合、仮想 WWNN を入力しま す。	仮想 WWNN を入力する。 2 桁ずつの半角英数字を コロン(:)で区切る。
	WWPN[注 2]	機能タイプが「FCoE」の場 合、仮想 WWPN を入力しま す。	仮想 WWPN を入力する。 2 桁ずつの半角英数字を コロン(:)で区切る。
	E-MAC[注 2]	機能タイプが「FCoE」の場 合、仮想 E-MAC アドレスを 入力します。	仮想 E-MAC アドレスを入 力する。 2 桁ずつの半角英数字を コロン(:)またはハイフン (-)で区切る。
	MAC[注 2]	機能タイプが「iSCSI」また は「LAN」の場合、仮想 MAC アドレスを入力します。	仮想 MAC アドレスを入力 する。 2 桁ずつの半角英数字を コロン(:)またはハイフン (-)で区切る。

[注 1]: 「仮想アドレス割り当て」にチェックを付けた場合のみ設定します。

[注 2]: 「自動割り当て」にチェックを付けない場合のみ設定します。

注意

- IQN、WWPN、仮想MACアドレスは、全体で一意である必要があります。
WWNNは、同一カードを除き、全体で一意である必要があります。
IQN、WWPN、WWNNが重複し、同一ボリュームに同時にアクセスするとボリュームを破壊する可能性があります。
仮想MACアドレスが重複すると、ネットワーク通信ができなくなります。
 - マルチキャストMACアドレスは仮想MACアドレスとして使用できません。
任意に仮想アドレスを設定すると、他カードの工場出荷値と重複する可能性があります。
ユーザーが重複しない仮想アドレスを事前に準備してください。
-

5. ストレージ用プロファイルの設定項目

ストレージ用のプロファイル中で設定する項目を記載します。対象とするストレージ種類に応じて選択可能な項目が異なる場合があります。

各項目の詳細は、対象ストレージのマニュアルを参照してください。

5.1. ETERNUS DX 用プロファイル

RAID&ディスク構成タブ

項目名		説明	設定値
RAID 構成			
RAID グループ名	RAID グループ名を指定します。 注意 装置に設定済みの RAID グループ名は指定できません。	RAID グループ名文字列を入力する。 1～16 文字が入力可能。	
RAID レベル	構築するディスクアレイの RAID レベルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 RAID1、RAID5、RAID6、RAID1+0	
ディスク本数	ディスクアレイに組み込むディスク本数を指定します。	ディスク数を指定する。 選択した RAID レベルに応じて選択可能な台数は異なる。	
ディスクインチ	ディスクドライブの種類（ドライブ外形サイズ）を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 2.5 Inch、3.5 Inch	
ディスク種別	ディスクアレイに組み込むディスクドライブの種類（インターフェース種類）を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 ETERNUS のモデル、選択したディスクインチに応じて選択可能な種別は異なる。 SAS、NL-SAS、SED、SSD	

項目名		説明	設定値
	ディスク容量	ディスクアレイに組み込むディスクドライブの種類（ディスク容量）を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 選択したディスクインチ、ディスク種別に応じて選択可能な容量は異なる。 300GB、450GB、1TB ほか
	ボリューム		
	ボリューム名	RAID グループに作成するボリューム名を指定します。 注意 装置に設定済みのボリューム名は指定できません。	RAID グループに作成するボリューム名文字列を指定する。 1～16 文字が入力可能。
	ボリュームサイズ	RAID グループに作成するボリュームサイズを指定します。	テキストボックスにボリュームサイズを指定し、プルダウンから以下を選択する。 最後のボリュームサイズに対しては"max"を指定すると RAID グループの残り全容量が割り当てられる。 ETERNUS DX60 S2 では"max"は指定できない。 MB、GB、TB
グローバルホットスペア			
	ディスクインチ	ホットスペアとして定義するディスクドライブの種類（ドライブ外形サイズ）を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 2.5 Inch、3.5 Inch
	ディスク種別	ホットスペアとして定義するディスクドライブの種類（インターフェース種類）を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 ETERNUS のモデル、選択したディスクインチに応じて選択可能な種別は異なる。

項目名		説明	設定値
			SAS、NL-SAS、SED、SSD
	ディスク容量	ホットスペアとして定義するディスクドライブの種類（ディスク容量）を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 選択したディスクインチ、ディスク種別に応じて選択可能な容量は異なる。 300GB、450GB、1TB ほか
ホストアフィニティ			
LUN グループ			
	LUN グループ名	LUN グループ名を指定します。 注意 装置に設定済みの LUN グループ名は指定できません。	LUN グループ名文字列を指定する。
ボリューム			
	ボリューム名	LUN グループに属するボリューム名を指定します。	LUN グループに属するボリューム名文字列を入力する。 プロファイルで作成するボリュームか、すでに装置に作成されているボリュームを指定する。
ポートグループ			
	ポートグループ名	ポートグループ名を指定します。 注意 装置に設定済みのポートグループ名は指定できません。	ポートグループ名文字列を指定する。 1～16 文字が入力可能。
ポート			
	ポート番号	ポートグループに属するポート番号を指定します。	ポートグループに属するポート番号を三桁の数字で指定する。
ホストグループ			
	ホストグループ名	ホストグループ名を指定し	ホストグループ名文字列

項目名		説明	設定値
		ます。 注意 装置に設定済みのホストグループ名は指定できません。	を指定する。 1～16 文字が入力可能。
	ホストタイプ	ホストグループのタイプを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 iSCSI、FC
	ホスト		
	ホスト名	ホストグループに属するホスト名を指定します。 注意 装置に設定済みのホスト名は指定できません。	ホストグループに属するホスト名文字列を指定する。 1～16 文字が入力可能。
	ホスト iSCSI	ホスト名を定義する iSCSI 名を指定します。 ホストグループのホストタイプが iSCSI 名のときに入力可能です。	iSCSI 名文字列を入力する。 先頭に "iqn." または "eui." を入力する。
	ホスト WWN	ホスト名を定義するホスト WWN を指定します。 ホストグループのホストタイプが FC のときに入力可能です。	ホスト WWN 文字列を入力する。 16 文字の 16 進数が入力可能。
詳細設定			
	Pre 実行コマンド	プロファイルの適用動作 (RAID/ホットスペア/ホストアフィニティ設定) の実行前に ETERNUS に対して実施したい制御コマンドを記述します。 特別な要求がない場合はチェックボックスを無効にしておきます。	記述内容については対象装置の『CLI ユーザーガイド』を参照してください。
	Post 実行コマンド	プロファイルの適用動作	記述内容については対象

項目名	説明	設定値
	(RAID/ホットスペア/ホストアフィニティ設定) の完了後に ETERNUS に対して実施したい制御コマンドを記述します。 特別な要求がない場合はチェックボックスを無効にしておきます。	装置の『CLI ユーザーガイド』を参照してください。

ポイント

- アレイ構成に使用するディスクドライブの搭載スロット位置は指定できません。
- ホットスペア構築に使用するディスクドライブの搭載スロット位置は指定できません。

5.2. ETERNUS NR 用プロファイル

SNMPタブ

項目名	説明	設定値
SNMP サービス		
SNMP サービス設定	SNMP サービス設定を使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 使用する (チェックなし) = 使用しない
SNMP エージェント (ON/OFF)	SNMP エージェントの有効、無効を指定します。	ON=機能を有効にする OFF=機能を無効にする
SNMP トラップ (ON/OFF)	SNMP トラップの有効、無効を指定します。	ON=機能を有効にする OFF=機能を無効にする
コミュニティ (ホスト用)		
コミュニティ名	SNMP コミュニティ名を指定します。	コミュニティ名 3～32 文字の文字列を入力する。
ユーザー (v3 ホスト用)		
ユーザー名	SNMP ユーザー名を指定します。	ユーザー名 3～32 文字の文字列を入力する。
認証設定	SNMP 認証設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする

項目名		説明	設定値
	認証プロトコル	SNMP 認証プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 MD5、SHA、SHA2、NoAuth
	認証パスワード	SNMP 認証パスワードを入力します。	認証パスワード 8～30 文字の文字列を入力する。
	暗号化設定	SNMP 暗号化設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする
	暗号化プロトコル	SNMP 暗号化プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 DES、AES、NoPriv
	暗号化パスワード	SNMP 暗号パスワードを指定します。	暗号化パスワード 3～30 文字の文字列を入力する。
	v3 ホスト		
	アドレス	SNMP ホストの IP アドレスを指定します。	ホストの IP アドレスを IPv4 または IPv6 のアドレス表記に従った文字列を入力する。
	ユーザー名	SNMP ユーザー名を指定します。	プルダウンから設定済みのユーザーを選択する。

NTPタブ

項目名		説明	設定値
時刻の自動調整			
	時刻の自動調整	時刻の自動調整を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする
	サーバ設定	時刻提供サーバの設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	アドレス	時刻提供サーバの IP アドレスを指定します。	時刻提供サーバの IP アドレスを IPv4 または IPv6 のアドレス表記に従った文字列を入力する。
	プロトコルバージョン	NTP プロトコルのバージョン	3 = インターネット標準

項目名				説明	設定値
			ョン	ンを指定します。	RFC#1305 に基づく NTP プロトコルバージョン 3 4 = インターネット標準 RFC#5905 に基づいた NTP プロトコルバージョン 4 auto(デフォルト) = Data ONTAP で NTP プロトコルのバージョンを選択

6. スイッチ用プロファイルの設定項目

スイッチ用のプロファイル中で設定する項目を記載します。
各項目の詳細は、対象スイッチのマニュアルを参照してください。

6.1. SR-X 用プロファイル

SNMP タブ

項目名			説明	設定値
SNMP サービス				
	SNMP サービス設定		SNMP サービス設定を使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 使用する (チェックなし) = 使用しない
	SNMP エージェントとトラップ (ON/OFF)		SNMP エージェントとトラップの有効、無効を指定します。	ON = 機能を有効にする OFF = 機能を無効にする
	SNMP エージェント設定		SNMP エージェント設定を使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 使用する (チェックなし) = 使用しない
	エージェントアドレス		エージェントアドレスを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = エージェントアドレスを有効にする 加えて、エージェントアドレスを IPv4 形式で入力する

項目名		説明	設定値
	SNMP エンジン ID	SNMP エンジン ID を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = SNMP エンジン ID を有効にする 加えて、SNMP エンジン ID を入力する。
SNMP ホスト (SNMPv1 or v2c)			
	番号	SNMP ホスト定義番号を指定します。	プルダウンから選択する。
	アドレス	SNMP ホストの IP アドレスを指定します。	SNMP ホストの IP アドレスを IPv4 形式で指定する。
	コミュニティー名	SNMP ホストのコミュニティー名を指定します。	SNMP ホストのコミュニティー名文字列を入力する。
	トラップ	SNMP トラップの送信有無を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 Off、v1、v2c
	書き込み	SNMP マネージャーからの書き込みを許可するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 許可する (チェックなし) = 許可しない
SNMP ユーザー (SNMPv3)			
	番号	SNMP ユーザー定義番号を指定します。	プルダウンから選択する。
	ユーザー名	SNMP ユーザー名を指定します。	SNMP ユーザー名文字列を入力する。
	アドレス設定	SNMP のホストアドレスを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	ホスト番号	SNMP ホスト定義番号を指定します。	プルダウンから選択する。
	ホストアドレス	SNMP ホストの IP アドレスを指定します。	SNMP ホストの IP アドレス文字列を入力する。
	トラップ設定	SNMP トラップ設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする

項目名		説明	設定値
	ホスト番号	SNMP ホスト定義番号を指定します。	プルダウンから選択する。
	ホストアドレス	SNMP ホストの IP アドレスを指定します。	SNMP ホストの IP アドレス文字列を入力する。
	認証設定	SNMP 認証プロトコルを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	認証プロトコル	SNMP 認証プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 None、MD5、SHA
	認証パスワード	SNMP 認証パスワードを指定します。	SNMP 認証パスワード文字列を入力する。
	暗号化設定	SNMP 暗号化設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	暗号化プロトコル	SNMP 暗号プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 None、DES
	暗号化パスワード	SNMP 暗号パスワードを指定します。	SNMP 暗号パスワード文字列を入力する。
	読み取り	SNMP MIB 読み取りを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none : 読み取りを許可しない all : 読み取りを許可する
	書き込み	SNMP MIB 書き込みを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none : 書き込みを許可しない all : 書き込みを許可する
	通知	SNMP MIB トラップ通知を	(チェックあり) = 有効に

項目名		説明	設定値
		有効にするかどうかを指定します。	する 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none : 読出しを許可しない all : 読出しを許可する

認証タブ

項目名		説明	設定値
アカウント			
	管理者のパスワードの変更	管理者パスワードを変更するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 管理者パスワードを変更する
	パスワード	新たな管理者パスワードを指定します。	パスワード文字列を入力する。

NTPタブ

項目名		説明	設定値
時刻の自動調整			
	時刻の自動調整	時刻の自動調整を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする
	サーバ設定	時刻提供サーバの設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	プロトコル (Time/SNTP)	使用するプロトコルを指定します。	Time =TCP を使用する SNTP =UDP を使用する
	アドレス	時刻提供サーバの IP アドレスを指定します。	時刻提供サーバの IP アドレス文字列を入力する。
	間隔設定	自動時刻設定する間隔を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	間隔時間 (起動時/期間指定)	自動時刻設定の間隔を指定します。	起動時=起動時に行う 期間指定=任意の期間に行

項目名			説明	設定値
		定)		う。加えて、画面に期間を入力する
		タイムゾーン設定	タイムゾーン設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
		グリニッジ標準時刻からの時間差	装置が使用するグリニッジ標準時刻からの時間差を指定します。	プルダウンから選択する。

STPタブ

項目名		説明	設定値
STP (スパニングツリープロトコル) 設定			
	STP	STP 設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから選択する。

6.2. VDX 用プロファイル

SNMPタブ

項目名		説明	設定値
SNMP サービス			
	SNMP サービス設定	SNMP サービス設定を使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 使用する (チェックなし) = 使用しない
	SNMP エージェントとトラップ (ON/OFF)	SNMP エージェントとトラップの有効、無効を指定します。	ON=機能を有効にする OFF=機能を無効にする
グループ (コミュニティとユーザー用)			
	グループ名	グループ名を指定します。	グループ名文字列を入力する。
	SNMP バージョン	SNMP バージョンを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 v1、v2c、v3
	v3 セキュリティレベル	SNMPv3 用セキュリティレベルを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を選択する。 auth、noauth、priv
	読み取り	SNMP MIB 読み取りを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none : 読み取りを許可しない all : 読み取りを許可する
	書き込み	SNMP MIB 書き込みを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none : 書き込みを許可しない

項目名		説明	設定値
			all : 書込みを許可する
	通知	SNMP MIB トラップ通知を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none : 読出しを許可しない all : 読出しを許可する
コミュニティ (ホスト用)			
	コミュニティ名	SNMP コミュニティ名を指定します。	コミュニティ名文字列を入力する。
	グループ	コミュニティが所属するグループを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから選択済みのグループを選択する。
	書き込み	SNMP コミュニティの書込みを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を選択する。 Enabled、Disabled
ホスト			
	アドレス	SNMP ホストの IP アドレスを指定します。	ホストの IP アドレスを IPv4 または IPv6 のアドレス表記に従った文字列を入力する。
	コミュニティ名	SNMP コミュニティ名を指定します。	プルダウンから設定済みのコミュニティ名を選択する。
	重大度レベル	SNMP トラップレベルを指定します。	プルダウンから選択する。
	トラップバージョン	SNMP トラップバージョンを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 v1、v2c
	UDP ポート	SNMP トラップ送信ポート番号を指定します。	SNMP トラップ送信ポート番号を入力する。

項目名		説明	設定値
			「0」～「65535」が指定可能。
ユーザー (v3 ホスト用)			
	ユーザー名	SNMP ユーザー名を指定します。	ユーザー名 1～16 文字の文字列を入力する。
	グループ	SNMP グループ名を指定します。	プルダウンから設定済みのグループを選択する。
	認証設定	SNMP 認証設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする
	認証プロトコル	SNMP 認証プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 MD5、SHA、NoAuth
	認証パスワード	SNMP 認証パスワードを入力します。	認証パスワード 1～32 文字の文字列を入力する。
	暗号化設定	SNMP 暗号化設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする
	暗号化プロトコル	SNMP 暗号化プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 DES、AES128、NoPriv
	暗号化パスワード	SNMP 暗号パスワードを指定します。	暗号化パスワード 1～32 文字の文字列を入力する。
v3 ホスト			
	アドレス	SNMP ホストの IP アドレスを指定します。	ホストの IP アドレスを IPv4 または IPv6 のアドレス表記に従った文字列を入力する。
	ユーザー名	SNMP ユーザー名を指定します。	プルダウンから設定済みのユーザーを選択する。
	重大度レベル	SNMP トラップレベルを指定します。	プルダウンから選択する。
	通知タイプ	SNMP 通知タイプを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 traps、informs
	エンジン ID	SNMP エンジン ID を指定し	エ ン ジ ン ID

項目名		説明	設定値
		ます。	「 0:0:0:0:0:0:0:0 」 ～ 「 FF:FF:FF:FF:FF:FF:FF:F F:FF」を文字列で指定する。 文字パターンは、MAC アド レスと同様。
	UDP ポート	SNMP トラップ送信ポート 番号を指定します。	SNMP トラップ送信ポート 番号を入力する。 「0」～「65535」が指定可 能。

認証タブ

項目名		説明	設定値
アカウント			
	管理者のパスワードの変 更	管理者パスワードを変更す るかどうかを指定します。	(チェックあり) = 管理者 パスワードを変更する
	パスワード	新たな管理者パスワードを 指定します。	パスワード 8～32 文字の 文字列を入力する。

NTPタブ

項目名		説明	設定値
時刻の自動調整			
	時刻の自動調整	時刻の自動調整を有効にす るかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効に する
	サーバ設定	時刻提供サーバの設定を有 効にするかどうかを指定し ます。	(チェックあり) = 有効に する (チェックなし) = 無効に する
	アドレス	時刻提供サーバの IP アドレ スを指定します。	時刻提供サーバの IP アド レスを IPv4 または IPv6 の アドレス表記に従った文 字列を入力する。
	タイムゾーン設定	タイムゾーン設定を有効に するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効に する

項目名			説明	設定値
				(チェックなし) = 無効にする
		地域	地域情報を指定します。	地域情報を (地域) / (都市) 形式で入力する。

6.3. イーサネットスイッチ (10GBASE-T 48+6 / 10GBASE 48+6) 用プロファイル

SNMPタブ

項目名			説明	設定値
SNMP サービス				
	SNMP サービス設定		SNMP サービス設定を使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 使用する (チェックなし) = 使用しない
		SNMP エージェントとトラップ (ON/OFF)	SNMP エージェントとトラップの有効、無効を指定します。	ON = 機能を有効にする OFF = 機能を無効にする
グループ (コミュニティとユーザー用)				
	グループ名		グループ名を指定します。	グループ名文字列を入力する。
	SNMP バージョン		SNMP バージョンを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 v1、v2c、v3
		v3 セキュリティレベル	SNMPv3 用セキュリティレベルを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を選択する。 auth、noauth、priv
	読み取り		SNMP MIB 読み取りを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none : 読み取りを許可しない

項目名		説明	設定値
			い Default: 読取りを許可する
	書き込み	SNMP MIB 書き込みを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none : 書き込みを許可しない Default: 書き込みを許可する
	通知	SNMP MIB トラップ通知を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none : 読出しを許可しない Default: 読出しを許可する
コミュニティ (ホスト用)			
	コミュニティ名	SNMP コミュニティ名を指定します。	コミュニティ名文字列を入力する。
	グループ	コミュニティが所属するグループを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから選択済みのグループを選択する。
	書き込み	SNMP コミュニティの書き込みを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以下を選択する。 Enabled、Disabled
ホスト			
	アドレス	SNMP ホストの IP アドレスを指定します。	ホストの IP アドレスを IPv4 または IPv6 のアドレス表記に従った文字列を入力する。
	コミュニティ名	SNMP コミュニティ名を	プルダウンから設定済み

項目名		説明	設定値
		指定します。	のコミュニティ名を選択する。
	トラップバージョン	SNMP トラップバージョンを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 v1、v2c
	UDP ポート	SNMP トラップ送信ポート番号を指定します。	SNMP トラップ送信ポート番号を入力する。 「1」～「65535」が指定可能。
ユーザー (v3 ホスト用)			
	ユーザー名	SNMP ユーザー名を指定します。	ユーザー名 1～30 文字の文字列を入力する。
	グループ	SNMP グループ名を指定します。	プルダウンから設定済みのグループを選択する。
	認証設定	SNMP 認証設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする
	認証プロトコル	SNMP 認証プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 MD5、SHA、NoAuth
	認証パスワード	SNMP 認証パスワードを入力します。	認証パスワード 1～32 文字の文字列を入力する。
	暗号化設定	SNMP 暗号化設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする
	暗号化プロトコル	SNMP 暗号化プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 DES、NoPriv
	暗号化パスワード	SNMP 暗号パスワードを指定します。	暗号化パスワード 1～32 文字の文字列を入力する。
v3 ホスト			
	アドレス	SNMP ホストの IP アドレスを指定します。	ホストの IP アドレスを IPv4 または IPv6 のアドレス表記に従った文字列を入力する。
	ユーザー名	SNMP ユーザー名を指定します。	プルダウンから設定済みのユーザーを選択する。

項目名		説明	設定値
	通知タイプ	SNMP 通知タイプを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 traps、informs
	UDP ポート	SNMP トラップ送信ポート番号を指定します。	SNMP トラップ送信ポート番号を入力する。 「1」～「65535」が指定可能。

認証タブ

項目名		説明	設定値
アカウント			
	管理者のパスワードの変更	管理者パスワードを変更するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 管理者パスワードを変更する
	パスワード	新たな管理者パスワードを指定します。	パスワード 8～64 文字の文字列を入力する。

NTPタブ

項目名		説明	設定値
時刻の自動調整			
	時刻の自動調整	時刻の自動調整を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする
	サーバ設定	時刻提供サーバの設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	アドレス	時刻提供サーバの IP アドレスを指定します。	時刻提供サーバの IP アドレスを IPv4 または IPv6 のアドレス表記に従った文字列を入力する。
	モード	モードを指定します。	Broadcast = SNTP サーバにブロードキャスト情報を問い合わせして時刻を同期する

項目名		説明	設定値
			Unicast=SNTP クライアントは SNTP サーバとポイント・ツー・ポイントの関係で動作する
	間隔設定	自動時刻設定する間隔を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) =有効にする (チェックなし) =無効にする
	間隔時間[s]	自動時刻設定の間隔[秒]を指定します。	画面に期間を入力する
	タイムゾーン設定	タイムゾーン設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) =有効にする (チェックなし) =無効にする
	グリニッジ標準時刻からの時間差	装置が使用するグリニッジ標準時刻からの時間差を指定します。	プルダウンから選択する。

6.4. CFX 用プロファイル

SNMPタブ

項目名		説明	設定値
SNMP サービス			
	SNMP サービス設定	SNMP サービス設定を使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) =使用する (チェックなし) =使用しない
	SNMP エージェントとトラップ (ON/OFF)	SNMP エージェントとトラップの有効、無効を指定します。	ON=機能を有効にする OFF=機能を無効にする
	SNMP エージェント設定	SNMP エージェント設定を使用するかどうかを指定します。	(チェックあり) =使用する (チェックなし) =使用しない

項目名		説明	設定値
	ドメイン ID	ドメイン ID を指定します。	ドメイン ID を入力する
	エージェントアドレス	エージェントアドレスを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = エージェントアドレスを有効にする 加えて、エージェントアドレスの IP アドレス文字列を入力する。
	SNMP エンジン ID	SNMP エンジン ID を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = SNMP エンジン ID を有効にする 加えて、SNMP エンジン ID を入力する。
SNMP ホスト (SNMPv1 or v2c)			
	番号	SNMP ホスト定義番号を指定します。	プルダウンから選択する。
	アドレス	SNMP ホストの IP アドレスを指定します。	SNMP ホストの IP アドレスを入力する。
	コミュニティー名	SNMP ホストのコミュニティー名を指定します。	SNMP ホストのコミュニティー名文字列を入力する。
	トラップタイプ	SNMP トラップの送信有無を指定します。	プルダウンから以下を選択する。 off、v1、v2c
	書き込み	SNMP マネージャーからの書き込みを許可するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 許可する (チェックなし) = 許可しない
SNMP ユーザー (SNMPv3)			
	番号	SNMP ユーザー定義番号を指定します。	プルダウンから選択する。
	ユーザー名	SNMP ユーザー名を指定します。	(チェックあり) = 指定する 加えて、SNMP ユーザー名文字列を入力する。
	アドレス設定	SNMP のホストアドレスを有効にするかどうかを指定	(チェックあり) = 有効にする

項目名		説明	設定値
		します。	(チェックなし) = 無効にする
	ホスト番号	SNMP ホスト定義番号を指定します。	プルダウンから選択する。
	ホストアドレス	SNMP ホストの IP アドレスを指定します。	SNMP ホストの IP アドレス文字列を入力する。
	トラップ設定	SNMP トラップ設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	ホスト番号	SNMP ホスト定義番号を指定します。	プルダウンから選択する。
	ホストアドレス	SNMP ホストの IP アドレスを指定します。	SNMP ホストの IP アドレス文字列を入力する。
	認証設定	SNMP 認証プロトコルを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	認証プロトコル	SNMP 認証プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 None、MD5、SHA
	認証パスワード	SNMP 認証パスワードを指定します。	SNMP 認証パスワード文字列を入力する。
	暗号化設定	SNMP 暗号化設定を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	暗号化プロトコル	SNMP 暗号プロトコルを指定します。	プルダウンから以下を選択する。 None、DES
	暗号化パスワード	SNMP 暗号パスワードを指定します。	SNMP 暗号パスワード文字列を入力する。
	読み取り	SNMP MIB 読み取りを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効にする 加えて、プルダウンから以

項目名		説明	設定値
			下を指定する。 none :読取りを許可しない all : 読取りを許可する
	書き込み	SNMP MIB 書き込みを有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) =有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none : 書き込みを許可しない all : 書き込みを許可する
	通知	SNMP MIB トラップ通知を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) =有効にする 加えて、プルダウンから以下を指定する。 none : 通知を許可しない all : 通知を許可する

Interfaceタブ

項目名		説明	設定値
インターフェース設定			
	ターゲット	ether ポートを指定します。	「シャーシ ID/ether ポート番号」または「ドメイン ID/スイッチ ID/シャーシ ID/ether ポート番号」で指定します。
	ポートタイプ	Endpoint にするかどうかを指定します。	(チェックあり) = Endpoint にする
	LLDP	LLDP を有効にするかどうかを指定します。	(チェックあり) =有効にする 加えて、プルダウンから以下を選択する。 Disable = LLDP 機能は動作しない Enable = LLDP 情報の送受信を行う

項目名		説明	設定値
			Send = LLDP 情報の送信 だけを行う Receive = LLDP 情報の受 信だけを行う
	Cfab ポートモード	Cfab ポートモードを有効に するかどうかを指定します。	(チェックあり) = 有効に する 加えて、プルダウンから以 下を選択する。 Auto = 自動的に検知した ポート種別で動作する External = 強制的に外部ポ ートとして動作する

認証タブ

項目名		説明	設定値
アカウント			
	管理者のパスワードの変 更	管理者パスワードを変更す るかどうかを指定します。	(チェックあり) = 管理者パ スワードを変更する
	パスワード	新たな管理者パスワードを 指定します。	パスワード文字列を入力す る。
AAA 設定			
	AAA グループ ID	AAA グループ ID を指定し ます。	プルダウンから以下を選択 する。 0～9
	LDAP 機能	LDAP サービス機能の有 効、無効を指定します。	有効 = 機能を有効にする 無効 = 機能を無効にする
	LDAP 設定	LDAP クライアント設定を 有効にするかどうかを指定 します。	(チェックあり) = 有効にす る (チェックなし) = 無効にす る
	クライアント		
	番号	クライアント番号を指定し ます。	プルダウンから以下を選択 する。 0～3

項目名			説明	設定値
			サーバ情報設定	サーバ情報設定を有効にするかどうかを指定します。 (チェックあり)=有効にする (チェックなし)=無効にする
			LDAP サーバアドレス	LDAP サーバの IP アドレスを指定します。 LDAP サーバの IP アドレス文字列を入力する。
			送信元	送信元情報を有効にするかどうかを指定します。 (チェックあり)=有効にする (チェックなし)=無効にする
			ドメイン ID	送信元ドメイン ID を指定します。 プルダウンから以下を選択する。 1～32
			アドレス	送信元 IP アドレスを指定します。 送信元の IP アドレス文字列を入力する。
			RDN	RDN を有効にするかどうかを指定します。 (チェックあり)=有効にする 加えて、RDN を入力する。 例 : CN
			バインド名 (RDN 以外)	RDN を除くバインド名を有効にするかどうかを指定します。 (チェックあり)=有効にする 加えて、RDN を除くバインド名を入力する。 例 : CN=user,DC=local
			管理者	管理者クラス情報を有効にするかどうかを指定します。 (チェックあり)=有効にする (チェックなし)=無効にする
			クラス ID	クラス ID を指定します。 プルダウンから以下を選択する。 0～3
			クラス値	管理者クラス値を指定します。 管理者クラス値の文字列を入力する。 例 : user

NTPタブ

項目名		説明	設定値
時刻の自動調整			
	時刻の自動調整		時刻の自動調整を有効にするかどうかを指定します。 (チェックあり) = 有効にする
	サーバ設定		時刻提供サーバの設定を有効にするかどうかを指定します。 (チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	プロトコル (Time/SNTP)	使用するプロトコルを指定します。	Time=TCP を使用する SNTP=UDP を使用する
	アドレス	時刻提供サーバの IP アドレスを指定します。	時刻提供サーバの IP アドレス文字列を入力する。
	間隔設定		自動時刻設定する間隔を有効にするかどうかを指定します。 (チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	間隔時間 (起動時/期間指定)	自動時刻設定の間隔を指定します。	起動時=起動時に行う 期間指定=任意の期間に行う。加えて、画面に期間を入力する
	タイムゾーン設定		タイムゾーン設定を有効にするかどうかを指定します。 (チェックあり) = 有効にする (チェックなし) = 無効にする
	グリニッジ標準時刻からの時間差	装置が使用するグリニッジ標準時刻からの時間差を指定します。	プルダウンから選択する。